

.....
明日を開く、地域活性化のための情報誌
.....



特集

第30回ふるさとイベント大賞

本誌は、宝くじの社会貢献広報事業として助成を受け作成されたものです



1 巻頭エッセー／チャレンジと安心！ 豊かな未来へ翔け上がる福岡県

服部誠太郎（福岡県知事）

特集 第30回ふるさとイベント大賞

第30回ふるさとイベント大賞表彰式・2026地方創生フォーラム in 東京を開催 2

大賞（内閣総理大臣賞）〈1団体〉

●東京名物 神田古本まつり【東京都千代田区】 4

最優秀賞（総務大臣表彰）〈1団体〉

●能代七夕「天空の不夜城」【秋田県能代市】 6

優秀賞（地域活性化センター会長表彰）〈3団体〉

●2025千歳・支笏湖水濤まつり【北海道千歳市】 8 ●あやせ工場オープンファクトリー【神奈川県綾瀬市】 10

●トチオノアカリ【新潟県長岡市】 12

ふるさとキラリ賞（選考委員会表彰）〈2団体〉

●島の子ども応援まつり【沖縄県石垣市】 14 ●本庄市高校生プロジェクト「七高祭」合同文化祭【埼玉県本庄市】 16

選考委員特別賞（選考委員会委員長表彰）〈1団体〉

●関門海峡キャンドルナイト【福岡県北九州市、山口県下関市】 18

次点〈20団体〉

●岩見沢ねぶた祭2024【北海道岩見沢市】 20 ●スノーキャンドル&焚火ナイト【秋田県鹿角市】 21 ●ジュピアランド

ひらた世界のあじさい・ゆりまつり【福島県平田村】 22 ●ひたち大宮DRAGON BAMBOO【茨城県常陸大宮市】 23

●七栄親子まつり【千葉県富里市】 24 ●小田原みなとまつり【神奈川県小田原市】 25 ●開成町あじさいまつり【神奈川県開成町】 26

●GIAHS結の日イベント【岐阜県】 27 ●三島市×佐野美術館×『刀剣乱舞ONLINE』コラボレーション記念イベント【静岡県三島市】 28

●家康公生誕月間【愛知県岡崎市】 29 ●いす-1GP京田辺大会【京都府京田辺市】 30

●こうばのでんしゃ【大阪府八尾市】 31 ●出石お城まつり【兵庫県豊岡市】 32 ●クリームソーダIN矢掛2025【岡山県矢掛町】 33

●むれ源平石あかりロード2024【香川県高松市】 34 ●奈留の日プロジェクト【長崎県五島市】 35

●水かけ地蔵まつり江迎千灯籠まつり【長崎県佐世保市】 36 ●島原城新能【長崎県島原市】 37 ●ツールドやばけい

2025【大分県中津市】 38 ●サバニ帆漕レース【沖縄県座間味村、那覇市】 39

レギュラーレポート

40 首長の思い

幸せと誇りを実感できる「^{うま}美し美浜」へ

戸嶋秀樹（福井県美浜町長）

グラビア

手前みそですが…

【宮城県南三陸町】

オンライン情報

地域活性化センターの最新情報はコチラ!!

地域づくりデジタル版

デジタル版誌面がオンラインで閲覧できます。



研修の開催情報

地域づくりを担う人材の育成や交流のための各種セミナー・研修などを開催しています。



助成金に関する情報

まちづくりなどへの各種助成金の交付、人材育成や人口・地域経済分析の支援などを実施しています。



宙を舞い、優雅に泳ぐこいのぼり

問い合わせ先▶館林市観光協会
電話0276(74)52233
(写真提供▶館林市観光協会)

平成17年には市内全体で5283匹という当時の世界記録にも認定されました。会場周辺は散策しやすく、来場者は季節の移ろいを感じながら、写真撮影など幅広い景観を楽しめます。ご家族をはじめ、多くの皆さまのご来場をお待ちしております。

そんな館林市の春の風物詩として「館林こいのぼりの里まつり」が3月20日から5月6日まで開催されています。鶴生田川・多々良沼・近藤沼・茂林寺沼の周辺にこいのぼりを掲揚し、春空の下、約3000匹のこいのぼりが宙を舞い優雅に泳ぐ圧巻の光景が楽しめます。

群馬県館林市は、県内でも東京に近く、東北自動車道や東武鉄道により約1時間でアクセスできる歴史と水辺の景観が調和するまちです。春になると市内各所で、つつじや桜などの花々が楽しめます。

(群馬県館林市)

こいのぼりの里まつり

表紙

チャレンジと安心！ 豊かな未来へ翔け上がる福岡県

福岡県知事 ● 服部 誠太郎



福岡県の組織は、この4月から「進化」しています。57年ぶりとなる部制改革を実施。人々の心を豊かにし、生活の質を高め、潤いと活力に満ちた地域社会を実現するために不可欠な文化芸術の振興に一層取り組む「文化局」や、県経済の原動力である中小企業の皆さまに対する支援のさらなる充実と展開を図る「中小企業振興局」などを新設しました。

今、私たちは、あらゆる分野で先送りできない課題に直面しています。こうした困難な課題に対し、しなやかに、かつ、強靱きょうじんに対処していくため、新たな組織と体制のもと、真正面から挑み、乗り越えて、大人も子どもも皆さんの笑顔で安心して暮らせる福岡県を実現してまいります。

次に、4つの柱で編成した令和8年度の予算についてです。

1つ目の柱は「人を育て、すべての人の活躍を応援する」。福岡県、そして日本の礎は「人」です。「人」こそ財たからであるとは考えています。新設した「人材育成・活躍推進部」を中心に、子育てや子どもの健やかな成長を支援するとともに、年齢、性別、障がいの有無、国籍を問わず、すべての人の活躍を応援します。誰もが仕事に就き、働き続けられるよう支援します。

2つ目の柱は「産業を育て、県経済を強くする」。県内雇用の8割を担う中小企業の皆さまをしっかりと支え、生産性や収益力を強くしていきます。自動車、半導体、水素のグリーン成長プロジェクトを推進するとともに、バイオや宇宙などの先端技術産業、スタートアップへの支援を強化します。併せて、本県の基幹産業である農林水産業の生産力強化に取り組み、強い農林水産業を実現していきます。そして、これらを支える産業人材の育成や道路などインフラの整備を進め、強い県経済を築いていきます。

3つ目の柱は「人を惹きつける元気なまちをつくる」。新設した「市町村・地域振興部」を中心に、市町村の皆さまとの連携を強化し、県内各地域を活性化させていきます。

ます。県民の皆さまに住んで本当に良かったと心から感じていただける「住み続けたい、住んでみたいまち」をつくり、文化芸術、スポーツの力で人とまちを元気にしていきます。

4つ目の柱は「健全な環境と、安全・安心なくらしを守る」。福岡県は、毎年のように大雨災害に見舞われています。防災・減災の取り組みを進めることはもちろんのこと、健全な環境を守り、人と動物と環境の健康バランスを持続的に保つワンヘルスの実践への取り組みを進めます。匿名・流動型犯罪グループ（トクリュウ）や飲酒運転など、犯罪・事故対策を強化し、県民の皆さまのかけがえない命と暮らしを守ります。

県民の皆さまを真ん中に、地域の多様な担い手として活躍されている方々とも協力し、これら4つの柱に基づきさまざまな事業を実施することにより、豊かな未来へ「翔」け上がる福岡県を実現していきます。

さて、福岡県では初めて、令和9年秋に「第43回地域づくり団体全国研修交流会福岡大会」を、それに先立ち、令和9年冬にはプレ大会を開催予定です。本大会は、全国の地域づくり団体や地域づくりに興味のある人、行政関係者が一堂に会し、自主的・主体的な地域づくりにつながる研修や情報交換を行うとともに、地域づくりネットワークの強化・活性化を図るために行うものです。

福岡県には、個性豊かで魅力あふれる地域が多くあります。ご参加の皆さまが、県内各地の地域づくり団体との交流を通して、それぞれの活動に新たなヒントや刺激となるものを持ち帰っていただける実りある大会となるよう、心を込めて準備を進めています。

併せて、この機会に、歴史文化や豊かな自然、自慢の食など本県のさまざまな魅力に触れていただき、「また来たい！」「もっと知りたい！」と思っただけの思い出深い滞在となることを願っています。

来年の秋はぜひ福岡へ。皆さまとの出会いを心から楽しみにしています。

第30回ふるさとイベント大賞表彰式・ 2026地方創生フォーラム in 東京を開催

地域活性化センターは、2026年2月27日（金）に東京都千代田区のルポール麹町で「第30回ふるさとイベント大賞表彰式」と「2026地方創生フォーラムin東京」を開催しました。当日は表彰式の様子や講師の講演などをYouTubeで同時配信し、多くの方にご視聴いただきました。

■プログラム

10：00～ 第30回ふるさとイベント大賞表彰式

14：00～ 2026地方創生フォーラムin東京

【テーマ】「地方創生のカギ～若者を呼び戻すのは大人の意識改革から～」

【基調講演】山口 泰史 氏（帝京大学経済学部地域経済学科教授）

【事例発表①】牧野 光朗 氏（追手門学院大学地域創造学部教授／前長野県飯田市長）

【事例発表②】渡邊 洸 氏（認定NPO法人カタリバ事務局長）

【パネルディスカッション】

（コーディネーター）大西 達也 氏（一般財団法人地域活性化センター常務理事）

（パネリスト）山口 泰史 氏、牧野 光朗 氏、渡邊 洸 氏



表彰式の記念写真



地方創生フォーラム in 東京の様子



大賞を受賞した「東京名物 神田古本まつり」の皆さん

第30回ふるさとイベント大賞の概要

「ふるさとイベント大賞」は、全国各地で数多く開催されている地域の活力を生み出すイベントを表彰し、全国に向けて紹介することによって、ふるさとイベントのさらなる発展を応援することを目的に設けられた賞です。

今回で30回目を迎え、第29回までに、219の個性豊かなイベントを表彰しています。

今後も、ふるさとイベントの創造・発展を促すことで、地域固有の風土・伝統・暮らしを守るとともに、地域に対する愛着と誇りを育み、内外との交流につながる地域の活性化を目指しています。

●応募対象イベント

2024年7月1日から2025年6月30日までに市区町村（広域を含む）で開催されたイベント。

※オンライン開催も対象。また、規模の縮小や内容の変更などがある場合でも、イベントを継続することで、そのイベントが本来持つ意味を伝えようと創意工夫を凝らしているものも含む。

以下のいずれかに該当するイベントは対象外。

- ①直近の5回（第25～29回）に大賞、最優秀賞等各賞を受賞したイベント
- ②継続性がなく1回の開催のみで終了するイベント

●選考過程

イベント主催団体から、市区町村等を通じ、都道府県へ応募書類を提出していただきました。今回の応募総数は124件でした。

応募されたイベントについては、イベントプロデューサーや学識経験者等により構成される「第30回ふるさとイベント大賞選考委員会」において厳正な審査を行い、受賞イベントを決定しました。

なお、選考にあたり、右記の選考基準を基にイベント内容を総合的に判断しました。

●選考基準

	評価のポイント
企画	<ul style="list-style-type: none">・地域資源を積極的に活用している。（地域資源：風土、産業、食文化、伝統文化、歴史、特産物、建築物・構造物など）・独創性にあふれ、新たな地域の魅力を創り出している。・多くの人を引き付ける魅力がある。・魅力を増すための創意工夫が顕著である。
運営	<ul style="list-style-type: none">・地域住民が積極的に参加している（参加することに誇りを持っている）。・地域の内外を問わず、交流や連携が行われている。・継続して開催されており（継続される見込みがあり）、将来の発展性が見られる。
効果	<ul style="list-style-type: none">・地場産業の振興や観光客誘致など、経済的な波及効果がある。（低予算でも波及効果が大きいなど）・地域の知名度アップに貢献している。・地域住民の郷土意識の高揚につながっている。・伝統文化の継承や新しい文化の創造につながっている。

選考委員長の総評

北川 フラム氏（株式会社アートフロントギャラリー代表取締役会長／アートディレクター）



撮影：Kanemoto Rintaro

今回の授賞イベントは、それぞれが独特のつくりあげをしていてバラエティに富んでいたと思います。

「東京名物 神田の古本まつり」は、あまりにも当たり前な東京催事になっていて注目されることはなかったのですが、考えてみれば、まさにふるさとのイベントとして広がりがある関係者総出の見本のようなもので、グランプリにふさわしいものでした。「能代七夕『天空の不夜城』」は名前通りのスペクタクルで、「2025千歳・支笏湖氷濤

まつり」はその風景の凛烈さが想像されるものですし、「あやせ工場オープンファクトリー」は産業と地域が一体になった面白さがありますし、「トチオノアカリ」も子供たちのアイデアがふるさとの伝統産業を照らすもので好感がもてました。子どもと言えばふるさとキラリ賞の「島の子ども応援まつり」も本庄市の高校生による「七高祭」も子どもがキッカケになって新しい潮流を感じます。「関門海峡キャンドルナイト」は島国日本の壮大なイベントとして一見したく思いました。

問い合わせ先

一般財団法人 地域活性化センター
地域創生・情報広報グループ地域創生課
〒103-0027 東京都中央区日本橋2-3-4
日本橋プラザビル13階
TEL 03-5202-6136 FAX 03-5202-0755
E-mail: event@jcrd.jp HP: https://www.jcrd.jp/



大賞 内閣総理大臣賞
東京名物 神田古本まつり
【開催場所】東京都千代田区・
神田神保町古書店街



評価のポイント

- 読書離れが叫ばれる中、毎年多くの人を集めているのは、主催者側の長い経験に基づく工夫と努力があるからだと思う。神保町を歩くだけでも楽しい、素晴らしいまつりを高く評価したい。
- 開催数、参加者の規模、海外にも知られている認知度の、どの観点から見ても内容の充実度が際立っている。本を楽しむ文化を応援するという側面でも、価値あるイベントだ。
- 古書店街という地域資源を生かし、文化振興と地域活性化の双方に寄与している点が評価できる。

次回 開催日程

- 開催日：未定（例年10月下旬～11月上旬）
- 開催場所：千代田区 神田神保町古書店街（靖国通り沿い）
- 問い合わせ先
 - ・ 団体名：神田古書店連盟
 - ・ 住所：東京都千代田区神田小川町3丁目22
 - ・ 電話番号：03-3293-0161（代表） ・ URL：<https://jimbou.info/>

大賞

第30回 ふるさとイベント大賞 内閣総理大臣賞

東京名物 神田古本まつり

神田古本まつりは、東京都千代田区・神保町古書店街を舞台に、毎年秋に開催されてきた日本最大級の古書イベントである。世界有数の古書街として知られる神保町の街並みを活かし、靖国通り沿いには多くのワゴンが並び、文学、歴史、思想、学術書、漫画、希少本など、多彩なジャンルの古書が一堂に集まる。

本イベントの魅力は、圧倒的な冊数や規模だけでなく、書店主と来場者が言葉を交わしながら本を選ぶという、古書ならではの体験にある。書棚の前で立ち止まり、本の来歴や背景について話を聞きながら一冊を手にする時間は、神保町の日常そのものでもある。国内の読書愛好家に加え、海外からの来訪者も多く、街全体が本を介した交流の場として機能する点も大きな特徴だ。

2025年秋に開催された第65回神田古本まつりでは、青空古本市を中心に、東京古書会館での特別企画やトークイベントなども行われ、会期中は多くの人々が神保町を訪れた。単なる販売の場にとどまらず、書物文化の継承や、地域資源としての古書街の価値を改めて伝える機会となった。

神田古本まつりは、長年にわたり地域とともに育まれてきた催しであり、神保町という街の個性と歴史を内外に伝える重要な文化イベントである。本を通じた人のつながりが、これからも自然なかたちで受け継がれていくことを感じさせる祭りである。

主催者メッセージ



神田古書店連盟広報
北澤 里佳さん

靖国通りに並ぶ古書ワゴンを巡りながら、思いがけない一冊に出会えるのが神田古本まつりの魅力です。書店主との会話をきっかけに、本の背景や来歴が自然と伝わってくる場面も多くあります。東京古書会館での特別企画とあわせ、神保町ならではの、人と本が近い距離で結ばれる時間を楽しんでいただけます。



開催DATA

自治体名	東京都千代田区
自治体人口	69,139人 ※2026年1月1日現在の住民基本台帳人口
主催団体	神田古書店連盟
開催回数	65回
開催日	2025年10月24日～11月3日
開催場所	千代田区 神田神保町古書店街 (靖国通り沿い・神保町交差点周辺)
観客数	約50万人 ※過去事例・関連媒体による参考値(公式確定数未公表)



写真提供：北羽新報社

評価のポイント

- 設計図のない中、写真や文献を頼りに100年以上前の大型灯籠を復活させた情熱と技術力に心を打たれた。
- 行政・企業・学校・住民が参画し、郷土意識の高揚と伝統文化の継承につながっている。経済効果も生まれ、地域の活性化に貢献している。
- 日本一の高さを誇る城郭灯籠をつくり上げた街の人たちの心意気にエールを送りたい。観光行事としても注目できるが、何よりも地域の誇りの醸成に寄与している。

次回 開催日程

- 開催日：2026年8月2、3日
- 開催場所：能代市国道101号（市役所入口交差点～通町交差点）
- 問い合わせ先
 - ・団体名：能代市環境産業部観光振興課
 - ・住所：秋田県能代市上町1番3号
 - ・電話番号：0185-89-2179（直通）
 - ・Mail：kankou@city.noshiro.lg.jp



第30回
ふるさとイベント大賞
総務大臣表彰

能代七夕 「天空の不夜城」

能代市は北に世界自然遺産の白神山地、西に雄大な日本海を望む自然豊かな街です。天然秋田杉が集積し、製材業を中心として発展し、かつては東洋一の木都とたたえられた歴史があります。近年では大規模な商用の洋上風力発電施設が全国で初めて稼働するなど、安定した風資源を活かしたエネルギーのまちづくりにも取り組んでいます。一方で、人口減少や少子高齢化の影響は避けられず、能代市も元気がなかった時期がありました。

こうした中、街中ににぎわいを取り戻そうと誕生したのが「天空の不夜城」です。能代市に古くから続く伝統行事「能代七夕」で百年以上前に運行されていた5丈8尺（17.6メートル）の大型灯籠を、地域活性化の起爆剤とするために2013年に復活させました。

復活にあたっては、当時の設計図は無く、写真や文献を頼りに、類似のお祭りを参考にするなど、地元の職人や商工関係者、行政等が一体となってゼロから作り上げました。

1基目は、名古屋城を模した役七夕の灯籠の生みの親といわれる地元の大工・宮腰屋嘉六にちなんで「嘉六」、2基目はかつて能代に実在した戦国大名「安藤愛季」にちなんで「愛季」と命名しました。

愛季は城郭灯籠として日本一の高さ（24.1メートル）を誇り、天まで届くような灯籠が、お囃子や太鼓、引手とともに街を練り歩く姿はまさに圧巻です。これまで、東京ドームでのイベント出展、人気歌手のコンサートのセットとしての貸し出し、海外インフルエンサーの招へい等により、地域外・国外にもPRしています。

地元の中学校では独自の灯籠を運行しているほか、2024年度で歴史に幕を閉じた「こども七夕」を天空の不夜城が受け皿となって引き継いでおり、地域愛の醸成にも一役買っています。

また、伝統の役七夕で実際に運行されていたという歴史が源泉であることから、天空の不夜城を入り口として、役七夕への参加にもつながっており、伝統継承の役割も果たしています。

主催者メッセージ



能代七夕「天空の不夜城」
協議会名誉会長・能代市長

齊藤 滋宣さん

2026年からは、さらなるファン獲得のため、プロジェクションマッピングやメタバース、VR等のデジタル技術を導入します。また、初めてとなる灯籠の大規模張り替えにも着手しており、変化を続けながら持続可能なイベントになることを目指しています。8月2、3日はぜひ我がまち自慢のお祭りを観に来てください。



開催DATA

自治体名	秋田県能代市
自治体人口	46,202人 <small>※2025年12月末の住民基本台帳人口</small>
主催団体	能代七夕「天空の不夜城」協議会
開催回数	10回（2025年開催で11回）
開催日	2024年8月2、3日
開催場所	能代市国道101号 (市役所入口交差点～通町交差点)
観客数	112,500人 (2025年開催は114,000人)



評価のポイント

- 支笏湖の水を用いた氷像という素晴らしいアイデアと、極寒というマイナスになりかねない条件を魅力に転換した点が印象的。
- 湖水を活用した氷像がやがて自然に還る、循環型の取り組みとしても意義深い。
- 地域資源の活用により観光客の誘致につなげ、地域の知名度向上や地域経済の活性化に貢献している。地元ガイドによる観覧ツアーや市民DAYの開催など、魅力を増すための創意工夫がされている。

令和8年 開催日程

- 開催日：令和8年1月31日～2月23日
- 開催場所：千歳市支笏湖温泉
- 問い合わせ先
 - ・団体名：一般社団法人国立公園支笏湖運営協議会
 - ・住所：支笏湖温泉番外地
 - ・電話番号：0123-23-8288 ・URL：<https://hyoutou-special.asia/>

優秀賞

第30回
ふるさとイベント大賞
地域活性化センター会長表彰

2025千歳・ 支笏湖氷濤まつり

北海道の空の玄関口、新千歳空港から車でわずか40分。支笏洞爺国立公園に位置する「支笏湖」は、日本屈指の美しさを誇る豊かな自然環境を今に伝えています。

かつての支笏湖では、春の湖水開きから秋の紅葉まつりまで多くの人でにぎわいを見せていた一方、冬になると客足が途絶え、静まり返るのが常でした。そこで冬の支笏湖に観光客を呼び込もうと、1979年（昭和54年）1月に地元のホテルや旅館、遊覧船の船長、市職員らが一丸となり、第1回「氷濤まつり」が産声を上げました。当時は、漁船に湖水を吹き付けた氷像や航空会社の客室乗務員による撮影会、勇壮な氷濤太鼓が披露されるなど、空港を有する街ならではの活気に満ちた幕開けだったと聞き及んでいます。

氷像制作には多大なエネルギーを要しますが、私たちはこの豊かな自然を次世代へとつなぐため、「環境負荷の低減」を運営の柱に据えています。氷像の骨組みには国立公園内の除伐材を骨組みや装飾材として使用し、支笏湖の水をスプリンクラーで吹き付けて、長い時間をかけ「氷像を育てる」のです。また、動力や夜を彩るライトアップの電力は、王子製紙による水力発電によって支えられています。

コロナ感染症拡大以降、氷像を静かに鑑賞いただく「氷の美術館」へとスタイルを刷新しました。昼は「支笏湖ブルー」に輝き、夜は色とりどりのライトの光に照らされ、幻想的な趣へと塗り替えられます。祭りの終わりとともに、氷像は静かに自然融解し、再び支笏湖の青い水へと還ります。この循環の形こそが、私たちが目指す自然との共生の姿です。

現在では年間13万人以上が訪れる、北海道を代表する冬の風物詩となりました。47年目を迎えるにあたり、地域住民の方々へ感謝を込めて「千歳市民DAY」（入場料無料）を設け、改めて地元の誇りである支笏湖ブルーを再認識いただく機会を創出しました。地域経済や雇用の創出に寄与しながら、私たちはこれからも、世界に誇れる支笏湖の冬を守り続けてまいります。

主催者メッセージ



一般社団法人国立公園支笏湖
運営協議会 代表理事

山田 勝晴さん

制作を担うのはわずか13名ほどの小さなチームですが、伝統を守りつつも、若き感性と新たな視点を加え、日々進化を続けています。澄み切った支笏湖の美しさと、氷濤が放つ神秘的な「支笏湖ブルー」の輝き。その唯一無二の光が皆さまの心に安らぎと希望を灯すことを願っています。訪れるすべての方に忘れられない感動を届けられるよう、心を込めて作り上げ、この冬、ここでしか出会えない青を鑑賞しにお越しくください。



開催DATA

自治体名	北海道千歳市
自治体人口	97,034人 <small>※令和7年12月末現在の住民基本台帳人口</small>
主催団体	一般社団法人 国立公園支笏湖運営協議会
開催回数	47回
開催日	令和7年2月1～24日
開催場所	千歳市支笏湖温泉
観客数	131,072人



評価のポイント

- 町工場をオープンにすることで、ものづくりを身近に感じられる機会を創出している。子どもたちにとっても魅力的な取り組み。
- 工場や技術そのものを地域資源として活用する着眼点が秀逸。地域の知名度アップや児童生徒への教育効果など、極めて意義深いイベント。
- 工場見学やものづくり体験だけでなく、消防、警察、市内外企業等による出展、地域の小学校との連携企画、工場で働く外国人材との交流など、地域の内外を問わず交流や連携が行われている。

次回 開催日程

■開催日：令和8年5月30日（上土棚・与蔵山下エリア）、6月27日（綾瀬工業団地エリア）、9月12日（吉岡エリア）、11月7日（早川・さがみ野・小園エリア）

■問い合わせ先

- ・団体名：綾瀬市商工振興課
- ・住所：神奈川県綾瀬市早川550 ・電話番号：0467-77-1111（内線3254）
- ・URL：<https://www.ayase-kougyoudanchi.jp/open-factory/>

優秀賞

第30回
ふるさとイベント大賞
地域活性化センター会長表彰

あやせ工場オープン ファクトリー

綾瀬市は県内有数の「ものづくりのまち」ですが、工場は「立ち入り禁止」の認識が強く、工場と地域住民との接点はありませんでした。そこで、地域に開かれた工場を目指し、経営者等で「あやせ工場オープンファクトリー実行委員会」を組織し、「繋がり」を生み、地域産業を活性化させることを目的に、①地域・産業愛の醸成②産業と住民が繋がる③地域内外でのビジネス創出④将来の担い手育成——を掲げ、本イベントを企画しました。

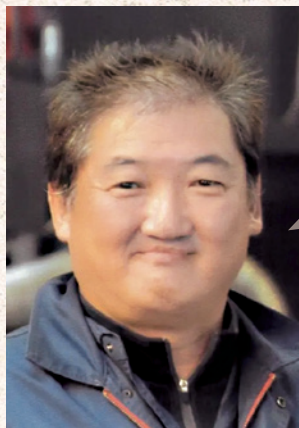
令和元年の綾瀬工業団地50周年を機にスタートした本イベントは、初回は一般財団法人地域活性化センター助成金による支援を受け、綾瀬工業団地1エリアでの開催から始まり、令和4年度からは規模を市内全域に拡大し、市内に点在する4エリア4日程で開催しています。

令和7年度は約60社の工場が参画し、来場者は延べ7800人を記録し、開催1回目から7回目までの延べ来場者の累計は2万人を超えました。アンケート結果から市外からの来場者が6割となっており、市内外に本イベントの認知が広がってきています。

また、本イベントの特徴として、工場見学イベントは他地域でも開催されていますが、綾瀬市では四つのエリアで4日程（約4カ月間）開催する点に加え、各エリアで「工場見学プラス1」の独自企画を展開していることです。

工場見学やものづくり体験だけでなく、親子ミニ四駆イベント（ものづくりとゲーム性）、地元レーシングチームや消防車両の展示、金融機関や保険会社などによる出店、地元グルメ出店、地域小学校との連携企画、工場で働く外国人材との交流、経営者や技術者による音楽ライブ、厚木基地の米軍属との交流機会（和太鼓）を盛り込むなど、日ごろ接点が少ない人々が集い、楽しめる独創的な魅力を創出しています。これにより、工場と地域、産業と暮らしをつなぐ新たな地域づくりのモデルを実践しています。

主催者メッセージ



あやせ工場オープンファクトリー
実行委員長

丸山 裕司さん

あやせ工場オープンファクトリーは、ものづくりが大好きな方はもちろん、お子様のいるご家族にも楽しむことができるイベントとなっています。ぜひ、ご来場いただき、普段立ち入り禁止の工場を訪問し、「ものづくりのまち あやせ」の日常を体感してみませんか。



開催DATA

自治体名	神奈川県綾瀬市
自治体人口	82,735人 <small>※令和7年12月末の住民基本台帳人口</small>
主催団体	あやせ工場オープンファクトリー 実行委員会
開催回数	7回
開催日	令和7年7月26日、9月13日、 10月4日、11月8日
開催場所	7月=綾瀬工業団地、9月=吉岡、10月=上土棚・ 与蔵山下、11月=早川・さがみ野・小園の各エリア
観客数	延べ7,800人



新潟県
長岡市

評価のポイント

- ^{あか}灯りを用いたイベントは各地で開催されているが、糸繰りに使った木枠のリユースによる「アカリ」は独自性が高く、伝統文化の継承につながっている。
- 「町を明るくしたい」という地元中学生の思いが形となったストーリーに心引かれる。地域密着にこだわった、心がほっこりとするイベント。
- ランプを通りに飾ることで回遊性を持たせ、商店街への人の往来を増やすなど、地域を面として捉えて地元の参加協力を得やすくする工夫をしている。

次回 開催日程

- 開催日：2026年9月26、27日
- 開催場所：長岡市栃尾地域谷内通り商店街周辺
- 問い合わせ先
 - ・団体名：トチオノアカリ協議会
 - ・住所：新潟県長岡市栃尾表町3-9
 - ・電話番号：090-4738-7353 ・Mail：yoshikuni-nishikata@yamanobu.net

優秀賞

第30回 ふるさとイベント大賞 地域活性化センター会長表彰

トチオノアカリ

トチオノアカリは、2015年に地元中学生の発案から始まりました。「栃尾の町を明るくしたい」という想いに大人たちが立ち上がり実現したイベントです。2016年秋から毎年開催し、2024年度で9回目の開催となりました。

長岡市栃尾地域は、かつて日本を代表する繊維産地として大いに栄えました。その名残として、織物の製造で使用していた木枠を地域内の企業から集め、糸を巻き付けてランプにしました。

「上杉謙信公旗揚げの地」栃尾の歴史的資源である秋葉神社（公園）や常安寺、ノスタルジックな雰囲気が漂う雁木通りなどの地域資源も活用しながら、繊維産業で盛り上がった栃尾地域らしい、糸を通して優しく広がる光で商店街を包むことができました。

約1500個のランプに加え、地域在住やゆかりのあるアーティストに参加いただき商店街周辺にインスタレーションを配置し、歴史あるお寺では音楽ライブを開催。また、空き店舗を活用して長岡市内の大学生がワークショップやインスタレーションを設営するなど、若者の発想や作品とレトロな町並みがランプの“アカリ”でつながるよう取り組んでいます。

2024年度は、地元の園児、小学生、中学生の作品のほか、保護者の皆さまからもお子さんへのメッセージを集め、インスタレーションの一部として使用しました。当日は、地元商工会の皆さまが中心となって運営する、キッチンカーや屋台などが出店するナイトマルシェも開かれ、イベントを盛り上げています。

地域住民、教育機関、地域企業・団体、行政の皆さまからご協力いただき、地域一丸となって創り上げているイベントです。

主催者メッセージ



トチオノアカリ協議会会長
西片 吉邦さん

トチオノアカリは、地域、行政、関わっていただいたアーティストの皆さまから支えられ、2025年事業で10年目の節目を迎えることができました。開催会場の歴史ある谷内通り商店街周辺を地域共有の財産と考え、繊維産業で栄えた地域らしいオリジナルランプでまちを照らし、各アーティストの作品を展示、地域の名産グルメなど大切な人との夜の街歩きを楽しんでいただける設営となっています。



開催DATA

自治体名	新潟県長岡市
自治体人口	252,265人 <small>※2025年12月末の住民基本台帳人口</small>
主催団体	トチオノアカリ協議会
開催回数	9回
開催日	2024年9月28、29日
開催場所	長岡市栃尾地域谷内通り商店街周辺
観客数	11,000人



沖縄県
石垣市

評価のポイント

- 離島の子どもたちの活動を支えるための資金造成と、子どもの文化活動の発表という二つの機能を持たせた点がユニーク。
- 離島での生活の中で、市民の皆さんが子どもたちの成長を願って支え合う取り組みに感銘を受けた。
- 地域性を生かした舞台構成は地域活性化や郷土意識の高揚につながっている。イベントに共感したボランティアが国内外から参加するなど、交流や連携が行われていることも評価できる。

次回 開催日程

- 開催日：2026年6月21日
- 開催場所：石垣市新栄公園
- 問い合わせ先
 - ・ 団体名：島の子ども応援まつり実行委員会
 - ・ 住所：沖縄県石垣市登野城2-70（大濱信泉記念館内）
 - ・ 電話番号：090-2193-5164 ・ URL：<https://ishigaki-haken.com/>



第30回 ふるさとイベント大賞 選考委員会表彰

島の子ども 応援まつり

石垣市を含む八重山地域は、県大会出場にも派遣費用がかかるなど、子どもの活動に関して大きな負担となっています。父母会を中心に資金造成等工夫をしていますが、限界もあります。また、日頃の活動成果を地域の人に広く知ってもらう機会も限られています。

このような状況に鑑み、子どもの資金造成と発表機会の確保を目的とした祭りを開催し、課題解決の一助としています。民間主導の実行委員会方式をとっており、スピード感、小回りの良さ、知恵と工夫で毎年改善しながら規模を拡大、地域全体で子どもたちを支えるイベントになっています。

ステージは、郷土芸能部やマーチングバンド、ダンスチームなど、子どもたちのみで構成し、大人やプロNGを徹底しています。飲食出店も全て父母会などの子ども関連団体のみとしています（一部福祉枠も設けています）。毎回出演団体が増え、3回目を迎えた2025年は17団体450名の子どもたちが出演、人口約5万人の石垣市で1万人以上を集客しています。飲食出店団体合計で1270万円を6時間で売り上げ、食材費を引いた全額が子どもの活動資金となっています。また、出演した子どもたちには地元企業からの協賛金で支度金が支払われています。集計はされていませんが、現地での募金額も多いと報告されています。

子ども関係のみで構成するというシンプルな発想で大きな効果を生み出しており、地域全体で子どもの活動を支える、なくてはならないイベントとなりました。運営費についても民間の工夫や地域企業を巻き込むことにより、実質150万円以下という低予算となっています。

マニュアルが製本化されており、他地域への展開も可能です。すでに青森県や沖縄県宮古島市、南城市などで当イベントに関するシンポジウムや説明会が開かれました。イベントに共感したボランティアが青森、千葉、滋賀、福岡、台湾、韓国などからも参加しています。開催要請も多く頂いており、次年度以降の開催も予定しています。

主催者メッセージ



島の子ども応援まつり
実行委員会 実行委員長

喜納 正雄さん

子どもたちがステージに立ち、父母会の飲食出店で資金造成を図るというシンプルな発想のイベントですが、想定以上の効果を生み出すことができました。地域全体で子どもの活動を支えることを目的として今後も継続していきます。受賞をきっかけとして、このようなイベントが全国に広がっていけば幸いです。



開催DATA

自治体名	沖縄県石垣市
自治体人口	49,490人 <small>※2025年12月末の住民基本台帳人口</small>
主催団体	島の子ども応援まつり実行委員会
開催回数	3回
開催日	2025年6月22日
開催場所	石垣市新栄公園
観客数	11,000人



評価のポイント

- 本庄市が単に3年間通う高校が所在した場から、自ら主体的に活動した場になり、かけがえのない思い出の場として長く残る効果が期待される。
- 毎年度プロジェクトのテーマを変更し、関わる市民や地元企業等を増やし、地域の交流・連携の場として、継続される見込みがあり、将来の発展性が期待できる。
- 学校や学年の枠を超えて高校生が集まり、大人たちと連携してまちとかかわっていく、というコンセプトに新鮮さを感じる。

次回 開催日程

- 開催日：令和9年2月14日（予定）
- 開催場所：カミケンシルクドーム（本庄総合公園体育館）
- 問い合わせ先
 - ・団体名：本庄市
 - ・住所：埼玉県本庄市本庄3-5-3 ・電話番号：0495-25-1614
 - ・URL：https://www.city.honjo.lg.jp/bunka_supotsu_kanko/ibento/nanakousai/index.html



第30回 ふるさとイベント大賞 選考委員会表彰

本庄市高校生プロジェクト 「七高祭」合同文化祭

本庄市高校生プロジェクト「七高祭」は、市内にある全6校の高等学校等に通う高校生が、学校や学年の垣根を越えて集まり、まちをフィールドに市民や地元企業、行政等と関わりながら取り組むプロジェクトです。人口規模に対して高校の数が多く、10代の流入人口が多いという本市の特色を活かし、高校生をまちの一員として捉え、ともにまちを知り、関わる機会を創出するため、平成20年度から名称や内容を変えて、現在まで継続している取り組みです。

人口減少や若年世代の転出が課題となる中、本市では、外から人を呼び込む施策だけでなく、ここに暮らし、関わる人が、本市の魅力を知り、自らの選択でまちを楽しみ活動することを大切にしています。七高祭は、高校生にとっては学校と駅の往復にとどまらない関わりを生み出し、まちの人にとっては、若い世代と出会い、まちの魅力や大切にしてきた思いを改めて見つめ直す機会となっています。

プロジェクトでは、ワークショップやフィールドワークを通じて、高校生と市民、地元企業、行政等が関わり合いながら取り組みを進めます。その過程で生まれたアイデアや活動の成果は、年度の集大成として開催される「合同文化祭」で発表されます。合同文化祭では、市内高校等が一堂に会し、部活動のステージ発表やブース出展、開発した商品の販売なども行われ、市内外から多くの来場者が訪れる、交流の場となっています。

また、プロジェクトをきっかけに、高校生自らが学校の枠を超えて「マチノブカツ」を立ち上げ、事業終了後も地域をフィールドに活動を続ける動きも生まれています。

七高祭は、高校生だけのための事業ではありません。高校生と関わることで、地域の人や行政にとっても、まちの価値や自分たちの役割を改めて考えるきっかけとなる、まち全体のプロジェクトです。今後も、人と人の関わりを大切にしながら、本庄市の未来につながる場でありたいと考えています。

主催者メッセージ



本庄市企画財政部広報課長
高柳 一美さん

本庄市高校生プロジェクト「七高祭」合同文化祭は、高校生の発表を「見るイベント」ではなく、まちの人や来場者のみなさんとともにつくり上げる場です。学校の垣根を越え、高校生と地域が関わり合う中で、想定を超えた化学変化が生まれ、まちに新たな動きが広がっています。“言葉より、体感”。ぜひ、多くの方のご来場をお待ちしています。



開催DATA

自治体名	埼玉県本庄市
自治体人口	76,169人 <small>※令和7年12月末の住民基本台帳人口</small>
主催団体	本庄市
開催回数	4回（平成20年度から実施。現在の形式での開催となってから4回開催。令和8年2月15日開催を含む）
開催日	令和7年1月26日（その他、ワークショップやフィールドワーク等を年10回程度実施）
開催場所	カミケンシルクドーム（本庄総合公園園体育館）
観客数	約3,000人



評価のポイント

- 両岸の歴史的建造物を生かしてキャンドルでつくりだした空間が幻想的。2日間で3万人という集客数に比べて開催費用が少なく、持続可能性が高いのも特筆すべき点。
- 地元学生や市民のボランティアの協力、産学官の連携を強化することで、地域全体で一体感のあるイベントとして継続性を高められている。
- 約3万のキャンドルで下関と門司の両岸が彩られる風景は、関門海峡という地域資源ならではのイベントとなっている。

次回 開催日程

- 開催日：2026年11月14、15日
- 開催場所：〔門司港エリア〕親水広場、ハーバーデッキなど〔下関エリア〕唐戸地区、下関駅前など
- 問い合わせ先
 - ・〔門司港エリア〕一般社団法人BASEMENT北九州＝電話番号070-8376-7103（平日10～17時）
 - ・〔下関エリア〕JOIN083大丸下関店＝電話番号083-227-4404
 - ・ URL： <https://kkcn.jp>

選考委員
特別賞

第30回 ふるさとイベント大賞

選考委員会委員長表彰

関門海峡 キャンドルナイト

冬の関門海峡が、数万本の柔らかな光に包まれる「関門海峡キャンドルナイト」。このイベントは、福岡県北九州市の門司港と、対岸の山口県下関市という、海峡を隔てた二つのエリアが同時に火を灯す日本最大級のキャンドルイベントです。

最大の特徴は、この広大なスケールの景観が、行政主導ではなく地域住民やボランティアの手によって作り上げられている点にあります。ボランティアの手で丁寧に火を灯していくそのプロセスこそが、本イベントの核心といえます。電気による一斉点灯のイルミネーションとは異なり、少しずつ街が光に染まっていく様子は、地域の人々の想いが波及していく姿そのものです。

門司港エリアでは、親水広場の広大な敷地を舞台に、西日本工業大学の学生たちが描くメッセージ性豊かなデザインが光のアートとして浮かび上がります。一方の下関エリアでも、日本遺産群のロケーションを活かした幻想的な光景が広がります。特筆すべきは、この両会場が「関門連絡船」によってわずか5分で結ばれている点です。この驚くべき近さこそが海峡を一つの会場として一体化させ、来場者が容易に両岸を回遊することを可能にしています。

また、この活動は「海峡を越えた連携」という、地域づくりにおける大きな挑戦を体現しています。県境を越えて手を取り合い、同一のテーマで街を彩ることで、関門圏域をひとつの大きな「家」と見立てた一体感が生まれています。震災復興への祈りから始まったこの灯火は、今では地域の絆を深める「希望の光」へと進化しました。

潮風に揺れる灯火は、見る者の心を静かに癒やし、地域の豊かさを再発見させてくれます。市民の手で灯された小さな火が、海峡という大きな舞台で一つにつながるとき、そこには持続可能な地域づくりの理想的な姿が浮かび上がっているのです。

主催者メッセージ



一般社団法人
BASEMENT北九州 代表理事

伊崎 司善さん

門司港と下関の両岸を彩る約3万本のキャンドルアートです。二つの会場は連絡船でわずか5分。船上から海峡を挟んで競演する灯火を眺める体験は圧巻です。門司港の壮大な地上絵と下関の幻想的な光の列、その両方を手軽に巡りながら、市民の手で灯された温かな炎の揺らぎと海風を五感で楽しむことができます。



開催DATA

自治体名	福岡県北九州市、山口県下関市
自治体人口	北九州市約908,000人、 下関市約243,000人
主催団体	関門海峡キャンドルナイト実行委員会
開催回数	門司港エリア14回、 下関エリア9回
開催日	毎年11月第3週あたり
開催場所	(門司港エリア) 親水広場、ハーバーデッキ など(下関エリア) 唐戸地区、下関駅前など
観客数	約30,000人



第30回 ふるさとイベント大賞

岩見沢ねぶた祭 2024

「ねぶたは青森だけのもの」——そんな固定観念を鮮やかに塗り替える熱狂が、札幌から特急で25分の北海道岩見沢市にあります。

1999年に一度は途絶えた岩見沢のねぶたの灯を2021年に復活させたのは、地元の大学生でした。その情熱が地域を動かし、このたび「ふるさとイベント大賞」にて2年連続の次点に選んでいただきました。

その魅力は、観客と担い手が一体となる「圧倒的な参加型スタイル」にあります。勇壮な武者人形が夜空を彩り、力強いお囃子が響き渡ると、街全体が巨大な熱狂に包まれます。特徴的なのは、誰でも「跳人」として自由に参加できること。運行が始まれば、沿道の居酒屋や商店からお客さんが飛び出し、世代を超えて共に跳ね、踊る。見るだけの祭ではなく、誰もが主役になれる開かれた場なのです。会場には全道から40台のキッチンカーが集結し、食とエンターテインメントが融合した多角的な楽しを提供しています。

祭の運営は、現在も北海道教育大学の学生が中心となり、市民と二人三脚で行われています。近年では青森公立大学や青森の運営団体との交流も深化。技術面でも青森の制作者から直接指導を受け、4カ月かけて岩見沢の民話や歴史をテーマにした「郷土のねぶた」を制作しています。さらに、本場青森からもお囃子や跳人が参加するようになり、今や岩見沢は「北のねぶた交流の場」へと成長を遂げました。

そして2026年、史上初となる「3日間運行」が実現。8月28日(金)、29日(土)の夜間運行、30日(日)には昼運行を開催します。

「100年続く祭」を目指して。学生の熱意から始まった一歩は、今や市民と青森をつなぐ大きな懸け橋となりました。2026年の夏、より力強く、より華やかに。岩見沢の空を焦がす熱い3日間を、ぜひ体感してください。



次回開催日程

- 開催日：2026年8月28～30日
- 開催場所：駅東市民広場公園・イベントホール赤れんが・中心商店街
- 問い合わせ先
 - ・団体名：岩見沢ねぶたプロジェクト実行委員会
 - ・住所：北海道岩見沢市4条西4丁目11 IHKビル 岩見沢ねぶたプロジェクト実行委員会事務局
 - ・電話番号：080-8203-5734 (担当：藤本)
 - ・Mail：info@iwamizawa-nebuta.com
 - ・URL：https://www.iwamizawa-nebuta.com

開催DATA

自治体名	北海道岩見沢市
自治体人口	72,922人
	<small>※2025年12月末現在の住民基本台帳人口</small>
主催団体	岩見沢ねぶたプロジェクト実行委員会
開催回数	5回
開催日	2024年8月31日、9月1日
開催場所	駅東市民広場公園・イベントホール赤れんが・中心商店街
観客数	約22,000人



第30回 ふるさとイベント大賞

スノーキャンドル& 焚き火ナイト

豪雪地帯ならではの資源を活かし、持続可能な地域モデルづくりを目的に開催する本イベント。雪そのものをイベントの主役に据え、スノーキャンドルや焚き火台には、お寺で使用済みとなったロウソクや建設会社の廃材を再利用しています。また、農家から仕入れた傷のあるリンゴを使ったりんご飴の販売も行い、廃棄されがちな資源に新たな価値を見いだしています。冬季は外出機会が少なくなりがちな地域において、世代を問わず雪遊びを楽しみながら、SDGsへの関心や「地域を想う気持ち」を育む場となっています。

雪、ロウソク、木材など、身近にありながらあまり活用されてこなかった地域資源を循環させる点も本イベントの大きな特徴です。会場に並ぶ約800～1000個のスノーキャンドルは、道の駅スタッフや地域ボランティアがすべて手作業で設置しています。花火や写真映える演出も取り入れ、幅広い世代を惹きつける工夫を重ねています。過去5回の開催では、巨大キャンプファイヤや謎解き、新たなスノーアクティビティなど毎回新企画を導入し、来場者に新鮮な体験を提供しています。

降雪期は閑散としがちな地域ですが、イベント当日は市外からの来訪者も多く、観光客誘致や地場産業の振興といった経済波及効果が見られるとともに、地域の知名度向上にも寄与しています。来場者の多くは地元住民であり、郷土への愛着や誇りの醸成にもつながっています。

このように、構想段階から当日の運営に至るまで、地域の担い手を中心となって取り組み、廃材やロウソクの提供、地元食材を使った飲食ブースの展開など、自然な連携が広がっています。今後も継続開催を通じて冬季誘客を図るとともに、雪や余剰ロウソクなど地域資源の循環を進め、雪国ならではの持続可能な地域づくりに寄与していきます。



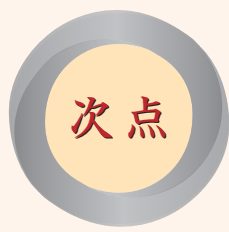
秋田県
鹿角市

次回開催日程

- 開催日：2027年2月6日（予定）
- 開催場所：道の駅かつの あんたらあ
- 問い合わせ先
 - ・団体名：株式会社かつの観光物産公社
 - ・住所：秋田県鹿角市花輪字新田町11-4
 - ・電話番号：0186-22-0555
 - ・Mail：kazunodmo@k-dmo.co.jp
 - ・URL：https://antlerkazuno.jp/

開催DATA

自治体名	秋田県鹿角市
自治体人口	26,339人 <small>※2025年12月末現在の住民基本台帳人口</small>
主催団体	株式会社かつの観光物産公社
開催回数	6回
開催日	2026年2月7日
開催場所	道の駅かつの あんたらあ
観客数	約1,500人（終日）



第30回 ふるさとイベント大賞

ジュピアランドひらた 世界のあじさい・ゆりまつり

福島県平田村では、地域資源である花を活用した観光振興と交流人口の拡大を目的として、「世界のあじさい・ゆりまつり」を開催している。本イベントは、村内に整備された「ジュピアランドひらた」を会場に、毎年6月下旬から7月下旬までの約1カ月間にわたり実施している。植栽されているあじさいの本数は825種あり、一日に開花しているあじさいの品種数が世界最多としてギネス世界記録に認定されているなど、本村を象徴する観光拠点となっている。

まつりの開催期間中は、色鮮やかなあじさいやゆりの鑑賞機会の提供に加え、地元特産品の販売や飲食ブースの出店、各種ステージイベント等を実施しており、来場者が地域の自然や文化、産業に触れる機会の創出につなげている。特に、7月上旬にはあじさいとゆりの開花時期が重なり、両方の花を同時に楽しむことができる景観が広がる。また、園内のあじさいは植栽ブロックごとにテーマを設けて管理されており、園内を周遊する三つの散策コースでは、それぞれ異なる品種や色彩のあじさいを鑑賞できることから、多様な景観を楽しめる点も本イベントの魅力となっている。

さらに、イベントの企画運営には地域住民や関係団体が参画しており、花の維持管理を含めた継続的な取り組みを通じて、地域内の連携強化や担い手の育成にも寄与している。加えて、SNS等を活用した情報発信や写真撮影スポットの整備など、来場者の満足度向上と新たな来訪者層の獲得に向けた取り組みも進めており、イベント来場者の増加のみならず、地元農産物や特産品の消費拡大といった経済効果の創出にもつながっている。

今後は、世界一に認められた「世界のあじさい園」を核とした観光資源の磨き上げを図るとともに、持続可能な地域づくりに資する取り組みとして、本イベントのさらなる充実と魅力発信に努めていく。



次回開催日程

- 開催日：令和8年6月20日～7月20日（予定）
- 開催場所：ジュピアランドひらた
（平田村大字蓬田新田字蓬田岳437）
- 問い合わせ先
 - ・団体名：一般財団法人平田村産業振興公社
 - ・住所：福島県平田村大字永田字切田116
 - ・電話番号：0247-55-3557
 - ・Mail：staff1@hirata-kosha.or.jp

開催DATA

自治体名	福島県平田村
自治体人口	5,241人 <small>※令和7年12月末現在の住民基本台帳人口</small>
主催団体	一般財団法人平田村産業振興公社
開催回数	7回
開催日	令和7年6月21日～7月21日
開催場所	ジュピアランドひらた（平田村大字蓬田新田字蓬田岳437）
観客数	約20,000人



第30回 ふるさとイベント大賞

ひたち大宮 DRAGON BAMBOO

茨城県常陸大宮市の久慈川沿いには、約10万平方メートルにおよぶ広大な真竹の竹林が広がっています。この景観は、文久2年(1862年)に度重なる氾濫から耕地を守るため、先人・木村弥次衛門が竹を植えた「防備林」としての歴史を持ちます。ここで育つ真竹は日本古来の竹であり、平地に生息する竹林として全国的にも屈指の景観資源です。その質の高さは、大正天皇および昭和天皇の「大葬の礼」の際に、厳かな儀式を彩る竹垣の材料としてこの地の竹が謹製・献上されたほどであり、地域の誉れとして大切に受け継がれてきました。

しかし、時代の変化とともに竹の需要が減少し、昭和末期以降は放置竹林の荒廃が大きな課題となっていました。この危機に立ち上がったのが、地元住民たちによる「辰ノ口竹林再生プロジェクト」です。住民説明会を重ねて目的を共有し、市民ボランティアや森林組合、行政等が一体となり、間伐や清掃、散策路の整備を行い、広大な竹林を次世代へ引き継ぐべき観光資源へと再生させました。

イベントの最大の見どころは、幻想的な光で竹林を彩る「ひたち大宮DRAGON BAMBOO」です。ライトアップの要となる「竹あかり」は、演出家集団「CHIKAKEN」の監修のもと、延べ300名ものボランティアが参加し、ワークショップを通じて一つひとつ丁寧に作り上げました。隣接する1300メートルの桜並木とともに、ライトアップされる竹林の光景は、まさに圧巻の一言に尽きます。昨年度は本イベントを目的に、全国から1万3450名もの来場者を記録しました。

2026年度はさらなる飛躍を目指し、来場者目標を2万人に設定しています。会場面積を昨年の1.5倍に拡充し、開催期間は3月28日から4月19日までとしました。特に4月4日には、野村花火工業とのコラボレーションにより「竹・桜・花火」という日本文化の粋が競演する特別な演出も行われました。

埋もれていた資源を住民の力で「地域の宝」へと変貌させたこの物語こそが、本事業の最大の価値です。常陸大宮の竹林は、歴史を紡ぎながら未来を照らす光として、今もなお力強く歩み続けています。

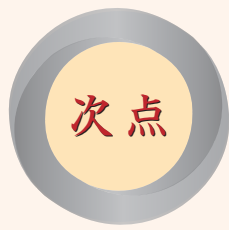


2026年開催日程

- 開催日：2026年3月28日～4月19日
- 開催場所：辰ノ口親水公園
- 問い合わせ先
 - ・団体名：一般財団法人常陸大宮市観光物産協会
 - ・住所：茨城県常陸大宮市山方530
 - ・電話番号：0295-57-3325
 - ・Mail：syokokan@city.hitachiomiya.lg.jp
 - ・URL：https://dragon-bamboo.jp/

開催DATA

自治体名	茨城県常陸大宮市
自治体人口	35,684人 <small>※2025年12月末現在の住民基本台帳人口</small>
主催団体	一般財団法人常陸大宮市観光物産協会
開催回数	1回
開催日	2025年3月22日～4月13日
開催場所	辰ノ口親水公園
観客数	13,450人



第30回 ふるさとイベント大賞

七栄親子まつり

千葉県富里市七栄地区には、昭和23年ごろに始まったといわれる「七栄の祭」がありましたが、火事により山車が焼損したことに伴い、しばらくの間、祭りが途絶えていました。その後、人口増加に伴い、一つだった小学校が二つに分かれたことをきっかけに、地域の発展と子供たちの交流の場として平成6年に有志により「七栄親子まつり」が始まりました。

当初は神社内だけのお祭りでしたが、平成8年に山車ができ、地域全体を2日間練り歩くようになりました。このほか、地域の中学生による吹奏楽部演奏や「ひずめ太鼓」の演奏、地域名物の「大綱引き大会」「ポッチャ体験」など様々な催し物が2日間にわたり行われています。

全長100メートルある太い綱を引き合う大綱引き大会は、小学校対抗から大人による本気の対決まであり、大変盛り上がりを見せます。七栄下座連の「佐原囃子」の音色が響く中で七若連による山車の曳き廻しも見ものです。

地域の想いがたくさん詰まった七栄親子まつりは、親子三代が関係するお祭りになっており、実行委員や関係者の大半も親子で携わっています。まだ規模は小さいながらも郷土愛が詰まっているお祭りですので、ぜひお越しいただけることをお待ちしております。

千葉県
富里市

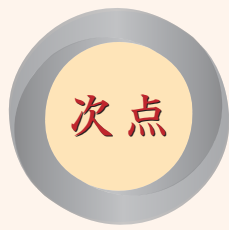


次回開催日程

- 開催日：令和8年10月17、18日
- 開催場所：千葉県富里市七栄稲荷神社および周辺
- 問い合わせ先
 - ・団体名：七栄親子まつり実行委員会
 - ・住所：千葉県富里市七栄
 - ・Mail：nanawakaren@gmail.com

開催DATA

自治体名	千葉県富里市
自治体人口	49,868人 <small>※令和7年12月末現在の住民基本台帳人口</small>
主催団体	七栄親子まつり実行委員会
開催回数	31回
開催日	10月第3週土、日曜日
開催場所	千葉県富里市七栄稲荷神社および周辺
観客数	10,000人



第30回 ふるさとイベント大賞

小田原 みなとまつり

小田原みなとまつりは「海と人とのふれあいの場」をテーマに、普段は乗ることができない漁船に乗船できる企画や、地元のおいしい水産物を味わうことができる企画などを実施し、地域住民・観光客を対象に小田原の海や魚の魅力を伝えるイベントです。

本イベントは、平成3年からスタート。地域の漁業者を中心とした水産関係者が主体となって実施しており、「海」を舞台とした企画が数多くあることが特徴です。海を舞台に毎年実施している企画としては、地元定置網漁を間近で見学することができる「これが相模湾の定置網だ」や、普段乗ることのできない漁船に乗って小田原沿岸を周遊する「相模湾ゆかい探検」のほか、遊漁船に乗船し釣果を競う「小田原の太公望」といった企画があります。その他、近年ではイベント内容も進化を続けており、令和元年に開業した「漁港の駅TOTOCO小田原」が位置する小田原漁港西側エリアと本港エリアを回遊する「港内クルーズ」といった企画を実施しているほか、グルメ企画もバージョンアップし、「地魚-1グランプリ」と題した、地魚料理のナンバーワンを来場者投票で決める企画も実施しています。さらに令和6年は、小田原市水産業プロモーションソング「オー！サカナ!!」のお披露目ライブとして歌唱を手掛けたシンガソングライター・眉村ちあき氏によるライブを実施。令和7年は、岸壁幼魚採集家・鈴木香里武氏と行く「相模湾ゆかい探検」、魚の伝道師・上田勝彦氏によるライブ型魚食講座として「ざわって、たべる、水族館」を実施しました。

このように小田原みなとまつりは従来の企画に加えて、近年ではより様々な角度から、海や魚の魅力を伝える取り組みをしています。会場はJR東海道線早川駅から徒歩約1分で、交通アクセスも抜群です。令和8年もさらなるバージョンアップを図り、よりお客様に楽しんでいただきつつ、海や魚の魅力を伝える企画をご用意しております。

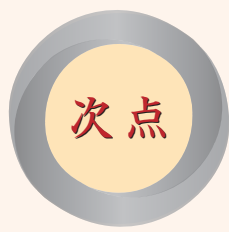


次回開催日程

- 開催日：令和8年8月2日
- 開催場所：小田原漁港とその周辺
- 問い合わせ先
 - ・団体名：小田原みなとまつり実行委員会
 - ・住所：神奈川県小田原市早川1-10-1
 - ・電話番号：0465-22-9227
 - ・Mail：su-shinko@city.odawara.kanagawa.jp
 - ・URL：https://www.city.odawara.kanagawa.jp/

開催DATA

自治体名	神奈川県小田原市
自治体人口	184,663人 <small>※平成7年12月末現在の住民基本台帳人口</small>
主催団体	小田原みなとまつり実行委員会
開催回数	32回
開催日	8月第1日曜日
開催場所	小田原漁港とその周辺
観客数	48,000人



第30回 ふるさとイベント大賞

開成町 あじさいまつり

開成町あじさいまつりは、ほ場整備エリアに景観作物として植栽された町の花・あじさいを活用した開成町最大の観光イベントで、町のPRを目的に昭和63年に第1回を開催して以来、毎年開催し、令和7年に第38回を迎えました。

草刈り・水やり・剪定などのあじさいまつりに向けてきれいな花を咲かせるための様々な作業は、町民や地域企業・団体などのボランティア活動に支えられています。また、来園者のおもてなしは、商工振興会、飲食店組合、婦人会などの団体が担っています。

あじさいの里の広大な田園とあじさいのコラボレーションという他のあじさいの名所にはない風景が、多くの観光客を魅了していますが、近年はさらに、都市からほどよく離れたちょうどいい田舎を楽しんでいただくため、古民家・あしがり郷瀬戸屋敷での特別展の開催や若手農家と連携し、農産物収穫体験（お茶、とうもろこし）の充実などに取り組んでいます。

開成町オリジナルあじさい「開成ブルー」の植栽エリアの充実、約2000輪のあじさいを池に浮かべた「あじさい池」の設置など、時代の変化に合わせた新たな魅力づくりに取り組んでいます。「あじさいのまち・開成」として町内外に認知されているほか、昨年4～5月の主要検索エンジンにおける「あじさいスポット検索ランキング」において、「開成町あじさいの里」が1位になるなど注目を集めています。

また、あじさいまつりが「学びの場」となることを目的に、地域の学校との連携を図っており、町内に立地する農業科と家庭科の専門高校によるあじさいの苗木販売・食品販売、地域の高校生による部活動発表（ステージイベント）、町内の中学生による記念うちわのデザイン制作などに取り組んでいます。

第38回開成町あじさいまつりでは、小田急電鉄との連携による特急ロマンスカーの開成駅への臨時停車、各種鉄道広告によるPRの効果もあり、入り込み観光客数は過去最多の22万3000人を記録しました。



神奈川県
開成町

次回開催日程

- 開催日：令和8年6月6～14日
- 開催場所：開成町「あじさいの里」
- 問い合わせ先
 - ・団体名：開成町あじさいまつり実行委員会
 - ・住所：神奈川県開成町延沢773番地
 - ・電話番号：0465-84-0317
 - ・Mail：sangyouka@town.kaisei.kanagawa.jp
 - ・URL：https://kaisei-ajisai.com/

開催DATA

自治体名	神奈川県開成町
自治体人口	18,539人 <small>※平成7年12月末現在の住民基本台帳人口</small>
主催団体	開成町あじさいまつり実行委員会
開催回数	38回
開催日	令和7年6月7～15日（例年6月上・中旬）
開催場所	開成町「あじさいの里」（開成町金井島1421付近）
観客数	223,000人



第30回 ふるさとイベント大賞

ジ ア ス GIAHS 鮎の日イベント

岐阜県の都市部を流れる長良川上中流域は、約86万人の人口を抱える川でありながら、流域の人々の暮らしの中で清流が保たれ、鮎が育っています。清流と鮎は地域の経済や歴史、食、伝統文化と深く結びつき、こうした人の生活、水環境、漁業資源が密接に関わり連環するシステムは「長良川システム」と呼ばれています。

長良川上中流域は、この長良川システムが高く評価され、平成27年12月に「清流長良川の鮎」として世界農業遺産に認定されました。世界農業遺産認定を記念して、県が誇る長良川システムや、清流の象徴である県魚「鮎」に対する興味・関心を高めてもらうことを目的に、7月の第4日曜日を「GIAHS鮎の日」として制定しました。

毎年GIAHS鮎の日では、清流長良川あゆパークをメイン会場、長良川流域4市などをサテライト会場として、「GIAHS鮎の日イベント」を開催しています。

本イベントは令和7年度で10回目を迎え、メイン会場である清流長良川あゆパークでは、捕まえた鮎の数を競う「鮎のつかみ取り大会」や、BBQコンロや鮎専用コンロで焼く「鮎の塩焼き体験」、岐阜県マスコットキャラクター「ミナモ」によるミナモクイズ大会など、子どもから大人まで楽しめるたくさんのイベントを実施し、1日約3800人の来場者でにぎわう大規模イベントにまで成長しました。特に鮎のつかみ取り大会は、大人の部、小中学生の部、幼児の部の3ブロックで分けし、合計約500人の参加者が1位を目指して、つかんだ鮎の数を競い合い、大きな盛り上がりを見せています。

サテライト会場では、長良川流域の4市を中心に県内各地で清流や鮎に関する様々なイベントを開催しています。

令和8年度以降も引き続き開催を予定していますので、皆さまのご来場をお待ちしております。



岐阜県



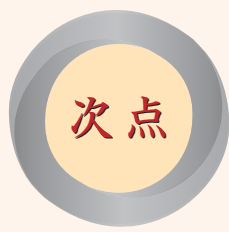
次回開催日程

- 開催日：令和8年7月26日
- 開催場所：清流長良川あゆパーク
- 問い合わせ先
 - ・団体名：世界農業遺産「清流長良川の鮎」推進協議会事務局（岐阜県農政部里川・水産振興課里川振興係）
 - ・住所：岐阜県岐阜市藪田南2-1-1 岐阜県庁13階
 - ・電話番号：058-272-8455
 - ・Mail：c11428@pref.gifu.lg.jp
 - ・URL：https://giahs-ayu.jp/

開催DATA

自治体名	岐阜県
自治体人口	1,897,676人
主催団体	世界農業遺産「清流長良川の鮎」推進協議会
開催回数	10回
開催日	7月第4日曜日
開催場所	清流長良川あゆパーク
観客数	3,000人程度

※令和7年9月岐阜県人口動態統計調査



第30回 三島市×佐野美術館×『刀剣乱舞ONLINE』 ふるさとイベント大賞 コラボレーション記念イベント

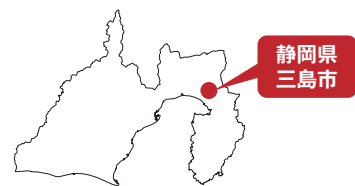
静岡県の東部に位置する三島市は、新幹線ひかり号で品川駅から37分と抜群の交通アクセスを誇ります。市内各所からは富士山の伏流水が湧き出し、「水の都・三島」としても親しまれています。また、中心部には伊豆国一宮として有名な三嶋大社も古くから鎮座しており、豊かな自然と歴史、文化に育まれた地です。

一方、佐野美術館は、刀剣や絵画、絵本など多岐にわたるテーマで年6回程度の企画展を開催しています。加えて、通年の講座や展覧会付随イベントなどを通じて、芸術に親しむための教育普及活動にも注力されています。

本市では、多くの刀剣を所蔵・寄託する佐野美術館の展覧会、そして刀剣とゆかりが深い三嶋大社など、市内に点在する刀剣にまつわる豊かな文化資源に着目しました。これらを活用し、大人気のPCブラウザ&スマートフォンゲーム『刀剣乱舞ONLINE』とのコラボレーション事業を実施しました。地域の魅力と価値を発信することで、来訪客の拡大と地域活性化、当市の文化振興へとつなげることを目的としました。

本コラボイベントでは、全国の刀剣ファンの皆さまに「三島市を訪れたい」と感じていただけるような企画を多数実施しました。具体的には、スタンプラリーや中心市街地の装飾、刀剣乱舞ONLINE関連イベントに加え、刀職者による実演イベントなども開催しました。これにより、日本が誇る伝統的な技術や日本刀への深い興味を喚起する機会を創出しました。

取り組みの結果、イベント期間中の美術館来館者数は1万7000人以上、スタンプラリーには1万4000人以上が参加し、多くの来訪客が市内を周遊しました。また、アンケート調査からは、来館者の7割以上が県外からの来訪者であり、その多くがSNSを通じて当市のコラボイベントを発信してくださったことが判明しました。これは当市の知名度向上に大きく貢献しただけでなく、新たな観光客の誘致と地域経済の活性化、そして文化振興に寄与する大変良い事例となったと考えています。



次回開催日程

- 開催日：未定（隔年開催）
- 開催場所：佐野美術館ほか三島市内全域
- 問い合わせ先
 - ・団体名：三島市文化のまちづくり課
 - ・住所：静岡県三島市大社町1番10号
 - ・電話番号：055-983-2756
 - ・Mail：bunka@city.mishima.shizuoka.jp
 - ・URL：https://www.city.mishima.shizuoka.jp/

開催DATA

自治体名	静岡県三島市
自治体人口	103,790人 <small>※2025年12月末現在の住民基本台帳人口</small>
主催団体	三島市／公益財団法人佐野美術館
開催回数	5回
開催日	2025年1月7日～2月16日
開催場所	佐野美術館ほか三島市内全域
観客数	約17,500人



第30回 ふるさとイベント大賞

家康公生誕月間

徳川家康公生誕の地である岡崎市では、家康公生誕日の12月26日を含む12月の1カ月間を「家康公生誕月間」と定め、家康公が生まれた岡崎城のある岡崎城公園周辺を舞台にイベントを多数開催しています。

メインイベントである「おかざき宵まいり」は、回遊型のイルミネーション・ライトアップイベントで、岡崎城周辺のスポットを回りながら、家康公の父・広忠公の御廟所がある松應寺を目指します。回遊ルート上での光の演出はもちろん、周辺飲食店でのお食事等も楽しみながら参加できます。開催日初日には点灯式が行われ、令和7年は、グレート家康公「葵」武将隊と岡崎観光伝道師のオカザえもんによるカウントダウンで岡崎城公園一体がライトアップされ、月間イベントの始まりを告げました。

12月の土日を中心に開催されるイベントは、街コン企画「恋結びin宵まいり」や、歴史を学びながら楽しめる「歴史ミーティング〜おかざきの陣〜」「徳川・豊臣探訪バスツアー」、全国の武将が集まる「全国武将サミット」「家康公生誕祭」など盛りだくさん。このうち、子どもたちの成長を願う家康公生誕祭は、地域住民・民間事業者の参画により、臺目の矢の実演や竹千代みこしの練り歩き等、若者からご家族まで楽しめるイベントです。

そして、最終日の12月26日、家康公の生誕日には、「家康公生誕花火」が打ち上げられます。令和7年は、岡崎観光伝道師で、音楽グループのH△G（ハグ）のカウントダウンライブの後、岡崎城を背景に、伝統ある三河花火が打ち上げられ、会場が一体となって、家康公の生誕を皆でお祝いしました。

その他、期間中は、東岡崎駅前のペDESTリアンデッキにある「徳川家康公像」や乙川に架かる複数の橋を特別色にライトアップするなど、まちの演出も図っています。ぜひ12月は、岡崎の冬の風物詩「家康公生誕月間」にお越しください！

（令和8年の事業内容は現在企画中です。本記事掲載の事業内容は変更等の可能性があります）



次回開催日程

- 開催日：令和8年12月
- 開催場所：岡崎城公園等
- 問い合わせ先
 - ・団体名：岡崎市
 - ・住所：愛知県岡崎市十王町二丁目9番地
 - ・電話番号：0564-23-6216
 - ・Mail：kanko@city.okazaki.lg.jp
 - ・URL：https://okazaki-kanko.jp/feature/iyeyasuko-seitangekkan/top

開催DATA

自治体名	愛知県岡崎市
自治体人口	381,179人
	<small>※令和8年1月1日現在の住民基本台帳人口</small>
主催団体	岡崎市
開催回数	2回
開催日	毎年12月
開催場所	岡崎城公園等
観客数	約20,000人



第30回 ふるさとイベント大賞

いす-1GP 京田辺大会

京田辺市は、京都・奈良・大阪といった都市部へのアクセスの良さと、豊かな自然環境が調和した魅力あるまちです。

そんな京田辺市の商店街の活性化を目的に、2010年、キララ商店街で「いす-1GP」が誕生しました。この大会は、事務椅子に乗り、2時間でコースを何周できるかを競うユニークな耐久レースです。地元の商店街を元気づけるとともに、参加者同士の交流の場としても大きな役割を果たしてきました。

2010年3月の初開催以降、全国30カ所、海外4カ所で大会が行われ、競技人口は1万人を超え、京田辺市の観光資源として大きな役割を果たしています。

2025年には大阪・関西万博の会期中に、吉本興業とタイアップしたレースも開催され、14回のレースに延べ700人以上が参加するなど、さらなる盛り上がりを見せました。

シーズンの最終戦として行われる京田辺大会には、全国各地から強豪チームが集まり、毎年白熱したレースが繰り広げられています。2025年度の大会は、地元「京田辺クロスパーク（たなクロ）」で2026年3月に開催され、地元中学生も運営や企画に積極的に関わするなど、より地域密着型のイベントとなっています。

優勝者には、地元産米（2025年は米不足により他県産）の特別賞品が贈られ、地域産業の振興にも寄与しています。また、各大会では地元住民と選手同士の交流も盛んに行われ、京田辺市をさらに元気にする重要なイベントとなっています。



2026年開催日程

- 開催日：2026年3月29日
- 開催場所：京田辺クロスパーク
- 問い合わせ先
 - ・団体名：一般社団法人日本事務いすレース協会／いす-1GP京田辺大会実行委員会
 - ・住所：京都府京田辺市河原食田10-48
 - ・電話番号：090-8827-9666
 - ・Mail：info@isu1gp.com
 - ・URL：https://isu1gp.com

開催DATA

自治体名	京都府京田辺市
自治体人口	71,830人
	<small>※2025年12月末現在の住民基本台帳人口</small>
主催団体	一般社団法人日本事務いすレース協会／いす-1GP京田辺大会実行委員会
開催回数	16回
開催日	2025年3月30日
開催場所	京田辺クロスパーク
観客数	2,000人



第30回 ふるさとイベント大賞

こうばのでんしゃ

企業や人が集う拠点である「みせるばやお」と八尾市、近畿日本鉄道の3者共催により、近鉄大阪上本町駅に停車する電車内で、八尾市内のものづくり企業の活動を紹介する体験型イベント「こうばのでんしゃ」が開催されています。本イベントは、みせるばやおから生まれたオープンファクトリーイベント「FactorISM」のスピノフ企画として、普段は気軽に見ることができないものづくりの現場を、より身近に感じてもらうことを目的としており、3者それぞれの強みを持ち寄ることで実現した取り組みです。



八尾市は、ブラシ産業をはじめとする地場産業の発展を背景に、全国有数の中小企業が集積する「ものづくりのまち」として発展してきました。

市民の皆さんに日頃からものづくりに触れてもらうため、近鉄八尾駅では市内企業の製品展示を行っています。



さらに、年に一度、ものづくりを身近に体験してもらうイベントとして、毎日の通勤・通学で利用される電車という日常的な空間を会場に、八尾市内のものづくり企業による体験型ワークショップを実施しています。

子どもから大人までが楽しめる、非日常的なエンターテインメントとなっています。

また、FactorISMは大阪・関西万博の開催に向け、こうばをサテライト会場とすることをめざして実施してきた経緯から、電車の行先表示に「大阪・関西万博行き」という独自のデザインを生み出し、大きな注目を集めました。

さらに、大阪のターミナル駅の一つでもある「大阪上本町駅」を会場として八尾のものづくりの魅力を発信することで、これまで関心なかった人々にも魅力に触れてもらう機会が生まれ、来場者数は令和4年比で504人増（48%増）を記録しました。その結果、みせるばやおの来場者数は1万1299人増（56%増）、メディア掲載数も73件増（74%増）となるなど、確かな波及効果が表れており、本イベントを通じて、八尾のものづくりの魅力が着実に広がっています。

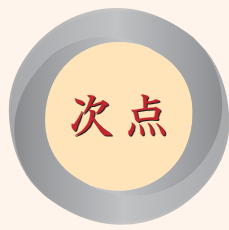


次回開催日程

- 開催日：令和8年5月31日
- 開催場所：大阪上本町駅構内
- 問い合わせ先
 - ・団体名：八尾市魅力創造部産業政策課
 - ・住所：大阪府八尾市清水町1-1-6
 - ・電話番号：072-924-3964
 - ・Mail：sangyou5@city.yao.osaka.jp
 - ・URL：https://www.city.yao.osaka.jp/

開催DATA

自治体名	大阪府八尾市
自治体人口	257,840人 <small>※令和7年12月末現在の住民基本台帳</small>
主催団体	八尾市魅力創造部産業政策課
開催回数	4回
開催日	令和7年5月25日
開催場所	大阪上本町駅構内
観客数	1,564人



第30回 ふるさとイベント大賞

いずし 出石お城まつり

出石お城まつりは、兵庫県豊岡市出石町の歴史遺産・出石城跡を舞台に、江戸時代の出石藩の参勤交代の様子を今に伝えるまつりで、毎年11月3日の文化の日に開催されます。

昭和43年に、出石町民の全額寄付により出石城の隅櫓が復元されたことを契機に、城跡を舞台としたまつりとして始まり、令和7年で53回目を迎える出石の伝統行事として定着しました。

まつりの象徴である大名行列槍振りは、出石藩主・仙石久利公の奥方が、江戸の赤坂奴を伴って出石へ里帰りした際、出石の町衆が「槍振り」の技術に感銘を受け、受け継ぎ広めたもので、現在も地元の有志たちが代々伝承しています。約40名の大人たちが、全長約5メートル、重さ10～20キロの槍を手に、「インサヨーイ・イーヤットマカセ・ヨイヨイハーヨーイ」という掛け声とともに壮麗な演武を繰り上げ、江戸時代の文化を生き生きと再現します。江戸時代の掛け声や所作をそのままに伝え、当時の演武を伝承・再現した貴重な文化芸能であり、豊岡市無形民俗文化財に指定されています。また、出石町内の小学生が城主・重臣・家老などの役を務める色彩豊かな「子ども大名行列」と、中学生の槍振り演武も重要な見どころです。

地域団体をはじめ幅広い世代によって支えられ、地域団体のバザー出店やステージイベント、地元の小中高生による吹奏楽演奏などがまつりを盛り上げます。また、姉妹都市の長野県上田市からも毎年出店などの交流があり、地域内外の結びつきを強める機会となっています。さらに、毎年お城まつりの翌日から近畿最古の芝居小屋「出石永楽館」で片岡愛之助さんが出演する永楽館歌舞伎公演を開催することが恒例となっており、看板俳優による「お練り」をお城まつりのイベントとして実施し、華やかな演出もお楽しみいただけます。

出石お城まつりは、郷土への誇りを育みながら伝統文化の継承と新しい地域文化の創出に貢献し、多くの人々が参加することで地域の歴史と文化を未来へとつなぐ重要な行事となっています。

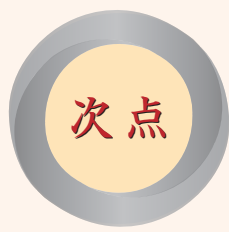


次回開催日程

- 開催日：令和8年11月3日
- 開催場所：豊岡市出石町
- 問い合わせ先
 - ・団体名：出石お城まつり実行委員会
(出石振興局地域振興課内)
 - ・住所：兵庫県豊岡市出石町内町1番地
 - ・電話番号：0796-52-3111
 - ・Mail：izushi-chiiki@city.toyooka.lg.jp
 - ・URL：https://izushi.co.jp/oshiromatsuri/

開催DATA

自治体名	兵庫県豊岡市
自治体人口	73,744人 <small>※令和7年12月末現在の住民基本台帳人口</small>
主催団体	出石お城まつり実行委員会
開催回数	53回
開催日	令和7年11月3日
開催場所	出石城跡周辺
観客数	25,000人



第30回 ふるさとイベント大賞

クリームソーダ IN 矢掛 2025

岡山県小田郡矢掛町で毎年開催されているクリームソーダを活用したイベント（今回で3回目の開催）。矢掛町の様々な飲食店でそのお店オリジナルのクリームソーダが楽しめます。クリームソーダを1杯注文するごとにオリジナルステッカーがもらえるほか、商品100円ごとに1ポイント押してもらえ、スタンプを集めることでオリジナルグラスをプレゼント。キャンペーン期間中はマスキングテープや缶バッジ、トートバッグ等のオリジナルグッズも購入できます。

キャンペーンを始めた経緯は「外から来た人に良いものでおもてなしをしてきた」という歴史がある宿場町矢掛町の特色を現代風に考え、企画したことです。クリームソーダを題材にしたのは作りやすさ、アレンジのしやすさ、原価の安さ（お店の利益率）、SNS映え等を考慮したため。地元で採れた果物等を素材に使っている店舗もあり、それぞれの商品ごとにお店の特色が出ています。飲み物だけでなく、ノベルティやオリジナルグッズの販売等により来場者の満足度を高めています。

前回開催時には約8000杯、今回は2カ月間の開催で約1万3000杯の売り上げがありました。NHK（全国放送）での生放送や、関西のテレビ番組に取り上げられたことで町の知名度アップにつながったほか、キャンペーンをきっかけに「矢掛町といえばクリームソーダの町」という認識が県内をはじめとして次第に広がってきています。また、このキャンペーンをきっかけに飲食店の看板メニューとしてクリームソーダを新たに開発し、売り上げにつながっている店舗も増えています。

キャンペーンへの反響の大きさもあり、町内の参加店舗も1年目13店舗、2年目18店舗、今回27店舗と年々増えています。また、来場者からの要望に応えた新メニューも回を重ねるごとに増加しており、店舗側も来場者をより楽しませるために、映える商品の開発など回を追うごとに工夫を重ねています。観光客からの「来年も開催してほしい」という声も年々増えてきていることもあり、矢掛町の定番イベントとしてこれからも毎年開催する予定です。



次回開催日程

- 開催日：2026年5月23日～8月2日
- 開催場所：矢掛町商店街他
- 問い合わせ先
 - ・団体名：一般財団法人矢掛町観光交流推進機構
 - ・住所：岡山県矢掛町矢掛1989
 - ・電話番号：0866-83-0001
 - ・Mail：yakage-kanko@yakage-dmo.or.jp
 - ・URL：https://japan-yakage.jp/

開催DATA

自治体名	岡山県矢掛町
自治体人口	12,853人 <small>※2025年12月末現在の住民基本台帳人口</small>
主催団体	一般財団法人矢掛町観光交流推進機構
開催回数	3回
開催日	2025年5月1日～6月30日
開催場所	矢掛町商店街他
観客数	約13,000人（商品注文数）



第30回

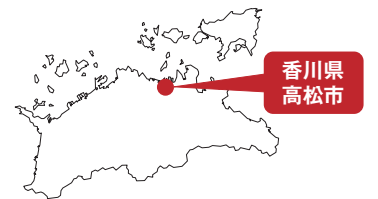
ふるさとイベント大賞

むれ源平石あかりロード 2024

私たちの活動エリアである香川県高松市牟礼町は、世界一高価な花こう岩「庵治石」の産地として有名な町です。また、源平屋島合戦（1185年）の古戦場であり、数多くの史跡が残されています。2003年、牟礼町を元気にすることを目的に住民主導のまちづくり活動が始まりました。地域特有の風土や文化を活かしたまちづくりに特化することを目指し、「原風景」をコンセプトに「石材産業文化」と「源平史跡文化」の二つの要素の融合を図りながら継承しつつ新たな付加価値も構築、広く発信して地域の活性化と産業の振興、そして地域の担い手の育成につなげることを目標として活動を続けています。「むれ源平石あかりロード」は、このコンセプトを基に生まれた事業で、2005年にスタートし、2024年に20回目を開催しました。

牟礼町のことでん八栗駅から源平史跡へと続く旧庵治街道（約1キロ）に、沿道の住民（住宅）やお店などに協力いただき、石あかり作品約150点を展示。開催期間中、毎日夕暮れ時から午後9時半まで点灯し、点在する源平合戦史跡を石あかりでつなぎます。地元石材業者や職人たちが毎年テーマに合わせて製作した個性豊かな石あかり作品が、柔らかな光を放ち歴史ある街並みを幻想的に彩り、来場者を楽しませています。光と石が織りなす景観は写真映えするスポットとしても人気が高く、家族連れや観光客など幅広く来場いただいています。期間中の週末には音楽ライブやグルメ屋台の出店、ワークショップなども行い、地域住民と来訪者が交流するにぎわいの場ともなっています。地域資源を活かした持続的なふるさとイベントとして、香川県および高松市を代表する初秋の風物詩として親しまれるようになりました。

このイベントを通じて庵治石はもとより庵治石産地のPR、また未来を担える伝統産業や文化の伝承、人材の育成など様々な受け皿となるハブ事業になれるように努めています。



次回開催日程

- 開催日：2026年8月29日～9月12日
- 開催場所：高松市牟礼町「ことでん八栗駅」から「源平史跡 駒立岩・祈り岩」まで約1キロの旧庵治街道沿い
- 問い合わせ先
 - ・団体名：むれ源平石あかりロード実行委員会
 - ・住所：香川県高松市牟礼町牟礼2625-18 讃岐石材加工協同組合内
 - ・電話番号：087-845-2446
 - ・Mail：okamoto-sekizai@snow.ocn.ne.jp
 - ・URL：https://www.ishiakari-road.com/

開催DATA

自治体名	香川県高松市
自治体人口	407,096人 <small>※2025年12月末現在の住民基本台帳人口</small>
主催団体	むれ源平石あかりロード実行委員会
開催回数	20回
開催日	2024年8月24日～9月7日
開催場所	高松市牟礼町「ことでん八栗駅」から「源平史跡 駒立岩・祈り岩」まで約1キロの旧庵治街道沿い
観客数	約15,000人



第30回 ふるさとイベント大賞

な 留 の 日 プロジェクト

長崎県五島列島の真ん中に位置する五島市奈留町は、人口約1700名の島です。そんな小さな島で、7月6日を「奈(7)留(6)の日」にしてみんなで祝おう!と始まったのが「奈留の日プロジェクト」です。7月6日を皮切りに島に住むことの楽しさや訪れることの楽しさを皆で体感できることをモットーとしたイベントを約1カ月間開催しています。

イベントは地域のみならず協議を重ね、年々奈留らしさを増しています。漁師町の象徴である大漁旗をイメージしたミニ大漁旗をバトンにし、島一周約63キロを保育園児～大人までがつなぐ「大漁旗マラソン」、島中の商店や飲食店が7と6にちなんだ価格で販売する「76セール」や「76マーケット」、奈留の夜の暗さを最大限に生かした光るバルーンイベント「76なる～」、長崎行きフェリーの出港を大合唱と紙テープで見送る「瞳を閉じて大合唱」。「瞳を閉じて」は、松任谷由実(荒井由実)さんが奈留高校の女子生徒からの手紙をもとに書き下ろした楽曲であり、現在は奈留高校の愛唱歌、そして、奈留住民のソウルソングとして親しまれています。

いずれも小さな島の手作りのイベントではありますが、これらは、島ににぎわいを創出し、地域住民と奈留を思ってくれるすべての人を確実に結んでくれています。「奈留島のためにこういうことができるけどどうかな?」と企画を持ち込んでくれる地域の方も多く、多世代がイベントに関わり、自分のできる範囲でイベントに参加してくれているのもこのプロジェクトの強みです。大漁旗を沿道いっばいに掲げて大漁旗マラソンランナーを待つくれる老夫婦、公式よりも早く多くSNS宣伝をしてくれる地域の方、「楽しか方がよかさ!」と利益度外視の価格でセールを盛り上げてくれるお店のみなさん。誰もが地域の担い手になれば、自分たちが住んでいる島の楽しさをこのプロジェクトを通して再認識することができます。奈留島らしい愛にあふれたプロジェクトは今年も7月6日に始まります。



次回開催日程

- 開催日：令和8年7月6日より約1カ月
- 開催場所：五島市奈留町一帯
- 問い合わせ先
 - ・団体名：奈留まちづくり協議会事務局
 - ・住所：長崎県五島市奈留町浦1815-3
 - ・電話番号：0959-64-3203
 - ・Mail：naru@city.goto.lg.jp

開催DATA

自治体名	長崎県五島市
自治体人口	1,705人(奈留地区) <small>※令和7年12月末現在の住民基本台帳人口</small>
主催団体	奈留まちづくり協議会
開催回数	3回
開催日	令和7年7月5日～8月13日
開催場所	五島市奈留町一帯
観客数	約520名



第30回 ふるさとイベント大賞

水かけ地蔵まつり 江迎千灯籠まつり

長崎県佐世保市江迎町で毎年8月23、24日に開催される水かけ地蔵まつりと江迎千灯籠まつりは、約500年の歴史を誇る伝統行事です。祭りはまず水かけ地蔵まつりから始まります。起源は室町時代にさかのぼり、子どもの健やかな成長や無病息災を願うものです。お地蔵様を川に浮かべて遊んでいた子どもたちからお地蔵様を取り上げた大人が高熱を出し、お地蔵様を子どもたちに返したところ熱が下がったという言い伝えから、寿福寺に安置されているお地蔵様を近くの嘉例川に運び、子どもたちが勢いよく水を浴びせます。そののち、水を浴びせながら町内を練り歩きます。

夕刻に近づくど街中に掲げられた提灯に火がともります。初盆を迎えた家々が先祖の霊を供養するために掲げた提灯を寿福寺に納め、これを水かけ地蔵まつりの際に参道に掲げたことが起源と考えられています。その数が次第に増え、「千灯籠」と呼ばれるようになりました。祭りの最大の見どころは、高さ約25メートルにも及ぶ巨大な「千灯籠」タワーです。幾重にも組まれた骨組みに3500個の赤い提灯が灯され、夜空に浮かび上がる姿は幻想的で圧巻です。この提灯は街中に掲げられており、その数は1万個以上になります。地域住民が力を合わせて作り上げるこの祭りは、郷土の誇りとして受け継がれ、県内外から多くの観光客が訪れる夏の風物詩となっています。

祭りの運営は、地域住民を中心とした実行委員会が担い、若者から高齢者まで世代を超えて参画しています。少子高齢化が進む中でも、伝統を未来へつなぐために、子どもたちへの継承活動や保存活動に力を入れています。

水かけ地蔵まつり、江迎千灯籠まつりは、単なる観光イベントではなく、地域の結束と誇りを象徴する祭礼です。長い歴史の中で培われた文化と人の力が融合する、九州を代表する夏の伝統行事です。



次回開催日程

- 開催日：令和8年8月23、24日
- 開催場所：佐世保市江迎町長坂263
(江迎中央公園他佐世保市役所江迎支所周辺)
- 問い合わせ先
 - ・団体名：江迎千灯籠まつり実行委員会
 - ・住所：長崎県佐世保市江迎町長坂182-8
 - ・電話番号：090-8296-6339
 - ・Mail：spvn44q9@citrus.ocn.ne.jp

開催DATA

自治体名	長崎県佐世保市
自治体人口	229,906人 <small>※令和7年12月末現在の住民基本台帳人口</small>
主催団体	江迎千灯籠まつり実行委員会
開催回数	数百回（詳細不明）
開催日	毎年8月23、24日
開催場所	佐世保市江迎町長坂263 (江迎中央公園他佐世保市役所江迎支所周辺)
観客数	45,000人（令和7年）



第30回 ふるさとイベント大賞

島原城薪能

寛文9年(1669年)に初代島原藩主となった松平忠房公は、文武両道は藩政の基盤であるとの考えのもと、学問文化の育成に努め島原城内に能楽堂を建立し、家臣にもたしなみとして能楽を広めました。正月二日は御謡始めとなっていて、たびたび能楽が催され、吉事には領民も招かれ観能したといわれています。また、尚舎源忠房文庫には数百冊の謡曲本と狂言本が伝えられています。

島原ではその伝統と文化を守り育てていくと、金剛流職分・故赤星正之助氏の願いに賛同した市民から賛助会員を募って番組広告を集め、昭和58年に鑑賞無料の「島原城薪能」が開催されました。今年で44回を迎えます。

第一部「肥前島原子ども狂言」は「島原子ども狂言ワークショップ」に参加した幼児から中学生までの子供たちが、和泉流狂言方の野村万禄氏に指導された稽古の成果を発表する晴れの舞台となります。また演目には島原独自の狂言もあり、毎年舞われる「釣ろうよ」に加え、昨年は新作狂言「山の三太郎」が初上演披露されました。第二部では観世流、金剛流、宝生流の三流派の能楽師が毎年交互に仕舞、舞囃子、能を披露しています。令和6年は金剛流宗家金剛龍謹氏による舞囃子「高砂」、島原城築城400年を記念して滅多に見ることができない祝いの能「内外詣」が金剛流シテ方嶋嶋晃嗣氏により披露されました。令和7年は宝生流家元宝生和英氏が「葵上」のシテを勤め幽玄の世界を披露しました。今年は10月3日(土)、島原城天守閣広場において、観世流シテ方馬野正基氏による演能を楽しんでいただく予定です。

薪能を開催するには、賛助会員の獲得・広告の募集、本番当日の会場設営・運営まで多岐にわたる作業が必要ですが、市内外の愛好家や秋祭りの実行委員会、まちづくり団体、高校生ボランティアなどの手を借りています。島原市の伝統文化を内外に広めるため、来場者にインバウンドも取り込もうとしています。

初秋の夜に島原城天守閣を仰ぎ見ながら、幽玄の世界を堪能してみませんか。



次回開催日程

- 開催日：令和8年10月3日
- 開催場所：島原城天守閣前広場（雨天時は島原文化会館）
- 問い合わせ先
 - ・団体名：島原城薪能振興会
 - ・住所：長崎県島原市高島2丁目7217
 - ・電話番号：0957-62-2411 (FAX：0957-64-3783)
 - ・Mail：takiginou@shimabara.jp
 - ・URL：https://www.takiginou.jp

開催DATA

自治体名	長崎県島原市
自治体人口	41,395人 <small>※令和7年12月末現在の住民基本台帳人口</small>
主催団体	島原城薪能振興会
開催回数	43回
開催日	令和7年10月4日
開催場所	島原城天守閣広場（雨天のため島原文化会館）
観客数	1,000人



第30回 ふるさとイベント大賞

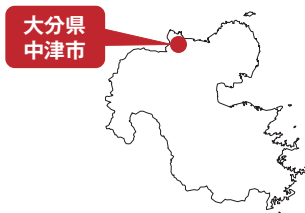
ツールドやばけい 2025

大分県中津市にある「耶馬溪」は日本新三景の一つに数えられ、国の名勝にも指定されている風光明媚な景勝地です。しかし、耶馬溪町の人口は昭和50年の7337人から令和6年には2995人へと約6割も減少しており、過疎化と観光客の減少が深刻な問題となっていました。この耶馬溪を全国に再認識してもらい、地域住民が誇りを持つ活力を創出することを目指して誕生したのが、サイクリングイベント「ツールドやばけい」です。

ツールドやばけいは、福岡県との県境の耶馬溪町を舞台に、スピード競技ではなく、ゆっくりと耶馬溪の見えそうで見えない美しい景色や、地域の食材を使ったエイドステーションを楽しんでいただくヒルクライムファンライドです。

その中でも最大の特徴として挙げられるのが、他のサイクルイベントとは一線を画す過酷なコース設定にあります。コース最長のSコース（150キロ）では、獲得標高3230メートル、登坂密度（距離に対する標高比）は21.6メートル／キロに達します。これは通常「本格山岳レベル」とされる指標を超えた超ハードな設定ですが、あえてこの厳しい坂道をコースに組み込むことで、「坂が好き」な熱狂的なサイクリストたちが集う特色あるイベントとして定着しています。参加者からは「自身の心が強靱であることを確信した」といった声が寄せられるほど、過酷なコースゆえの達成感が大きな魅力となっています。

また、地域の「おもてなし」も欠かせない要素です。エイドステーションでは、地元商店、生産者が一体となり、中津名物の唐揚げや地鶏、地域の食材を活かしたメニューを提供し、参加者を温かく迎えます。



次回開催日程

- 開催日：未定
- 開催場所：未定
- 問い合わせ先
 - ・団体名：中津市耶馬溪支所地域振興課（担当・三木）
 - ・住所：大分県中津市耶馬溪町大字柿坂138-1
 - ・電話番号：0979-54-3111
 - ・Mail：miki.hiroyuki@g.city-nakatsu.jp
 - ・URL：https://tourdeyabakei.studio.site/

開催DATA

自治体名	大分県中津市
自治体人口	81,132人 <small>※令和7年12月末現在の住民基本台帳人口</small>
主催団体	ツールドやばけい実行委員会
開催回数	3回
開催日	2025年5月11日
開催場所	中津市内
観客数	不明（当日参加者478人）



第30回 ふるさとイベント大賞

サバニ帆漕レース

皆さんサバニを知っていますか。

サバニとは、沖縄に古くから伝わる伝統的小型漁船で、古くは農業・漁業に活用し、島間をつなぐ交通手段としても使用していました。そのように伝統があるサバニですが、戦後のエンジン普及に伴い、培われてきた帆走の技術、先人の叡智が忘れ去られようとしています。

伝統文化であるサバニを今後も後世に伝えるため、2000年の九州・沖縄サミットを記念して本レースが開催されることになりました。このレースでは伝統的な帆かけサバニを使用し、慶良間諸島の座間味村（古座間味ビーチ）から那覇市（那覇港沖）までの約19カイリ（35キロ）のコースを夏至南風を受けながら、チーム一丸となってゴールを目指すレースとなっています。

割り舟の原型を残しながら洗練された沖縄古来の海洋カヌー「サバニ」はマリンスポーツとしての要素だけでなく、沖縄の海洋文化を継承するという役割も持ち合わせます。風が吹けば帆を上げ、風がやめば炎天下の海を力を合わせて漕ぐ過酷さが評判を呼んでおり、毎年350～450名、30～40チームの参加艇があります。参加者の中には、島民や島の中学生、女性等、年齢や性別を超えて参加し、日ごろの練習の成果を競い合います。

また、スタート地点の古座間味ビーチはフランスのミシュラングリーンガイドジャポンから二つ星のビーチに認定され、世界屈指の美しさを誇ります。その美しい海と勇壮なレースの様子を見ようと、観光客や地域住民が応援にかけつけます。レース前日はマリリンカップという前哨戦が実施され、その日の夜には前夜祭が開催されます。レース当日の夜は、ゴール地点である那覇市で表彰パーティーも催され、無事完走した皆さんはチームの垣根を越え、互いの健闘をたたえ合います。表彰パーティー最後の締めはやはり沖縄特有の「カチャーシー」です。前夜祭や表彰パーティーも参加者の楽しみの一つとなっています。また、前日にはスタート会場となる古座間味ビーチを清掃するなど環境に配慮した活動も行っています。

今後も伝統文化を継承しながら、環境保全にも寄与するイベントとして築き上げていきます。



次回開催日程

- 開催日：令和8年6月20日（島内プレレース）、21日（本レース）
- 開催場所：座間味村古座間味ビーチ（出発地）、那覇市とまりん緑地広場（表彰式会場）
- 問い合わせ先
 - ・団体名：サバニ帆漕レース実行委員会（座間味村観光協会内、座間味村役場船舶・観光課内）
 - ・住所：沖縄県座間味村字座間味109番地
 - ・電話番号：098-987-2277（観光協会）、098-987-2320（船舶・観光課）
 - ・Mail: zamami.sabani@gmail.com（観光協会）、kankou02@vill.zamami.lg.jp（船舶・観光課）

開催DATA

自治体名	沖縄県座間味村、那覇市
自治体人口	859人（座間味村） <small>※令和7年12月末現在の住民基本台帳人口</small>
主催団体	サバニ帆漕レース実行委員会
開催回数	26回
開催日	令和7年6月21日（島内プレレース）、22日（本レース）
開催場所	座間味村古座間味ビーチ（出発地）、那覇市とまりん緑地広場（表彰式会場）
観客数	約300人



福井県美浜町長 戸嶋 秀樹

幸せと誇りを実感できる「^{うま}美し美浜」へ

若狭湾の澄んだ海と白い砂浜、神秘的に輝く三方五湖、耳川の清流、緑深い森林、どれもが美浜の誇る自然の景観です。

美浜の人々は日々の営みの中で、自然に心を和まされ、自然を敬い、自然を慈しむことによって、人に対して思いやりの心を培ってきました。

そして、そこから和を大切に、人情味あふれるハートフルな気風が育まれました。美しい自然が、心に栄養補給し、人とまちを元気にする。それはまさに、おいしい自然。美浜はその名のおり「^{うま}美し」まちです。

基幹産業は、豊かな自然を生かした農林水産業で、近年は観光業との連携による都市部との交流が活発です。また、「原子力と共生する町」として、エネルギー・環境問題で先進的な取り組みをしています。

本町では、まちづくりの最上位計画となる「第五次美浜町総合振興計画（平成28（2016）年度～令和7（2025）年度）」に基づき、町の将来像「みんなで創り 絆（つな）ぎ 集う 美し美浜」の実現に向け、町民と行政の共創によるまちづくりを着実に進めてまいりました。

しかしながら、人口減少と少子高齢化の加速、人のつながりの希薄化やデジタル化の進展、気候変動対策等、時代の大きな転換点において、本町においても、このような社会情勢の変化に的確に対応し、持続可能な地域社会を築くことが喫緊の課題となっています。

そのため、このような状況を踏まえ、多くの町民の参画のもと、「第六次美浜町総合振興計画」を策定いたしました。本計画は、「ひと育み 未来に挑む 共創のまち」継承、進化する「美し美浜」を将来像に掲げ、先人が築いた「美し美浜」の精神と誇りを礎に未来へ挑戦し、誰もが幸せを実感できるまちを目指すものです。

その実現に向けて、地域を愛し自ら行動する「人」づくりと、若者や女性が意欲的に挑戦できる仕事と交流の「場」づくり、人口減少下でも誰もが安心して暮らせる「し

あわせの基盤」づくりをまちづくりの指針と位置付けました。

本計画にもとづき、幸せと誇りを実感できる「美し美浜」「美浜の未来」に向け、住民、行政、美浜を愛する人々が立場を超えて共に挑み、創ってまいります。

総合振興計画における優先施策の一つが令和5年度より本格的に始動した、「みはまシナプスプロジェクト」です。これは学びと挑戦を育む「人づくり」、優しい回遊空間を創る「空間づくり」、共創の軸線を貫く「コンテンツづくり」を柱とした地域活性化の取り組みで、町の中心に美浜らしいにぎわいをつくることを目標としています。初年度より段階的に活動を広げており、令和7年度には人づくりのための新しい拠点「美浜未来想作所 まほら」も開所しました。ここでは小・中学生を対象とした福井県初の町公設塾「放課後教室サン」、高校生を対象とした「学びコミュニティKai」が活動しています。

町の中心に「にぎわい」を創るため「人づくり」「空間づくり」「コンテンツづくり」。この3つの行動指針が連動して生まれる相乗効果への期待を、コンセプトワードの「シナプス」に込めています。

「サン」「Kai」による「人づくり」は、想像以上に成果を得ています。初年度は小・中学生を対象、次年度には高校生を対象、最終的には大学生・社会人へと対象を広げています。児童・生徒の活動に波及効果をもたらすべく、イベントなど町民や町外の方々を巻き込んだ取り組みも積極的に行っています。小・中学生から段階を経て広げた人づくりが、さらに広がるようとしている今、折に触れひとつひとつの積み重ねが「にぎわい」につながっていくのだと確信しています。

まちづくりの根幹は「人づくり」です。人と人がつながる学びと挑戦・地域愛を育む「みはまシナプスプロジェクト」を柱に教育の振興や地域活動の支援を通じて、美浜の明るい将来展望が開かれるものと考えています。

手前みそ
ですが…

宮城県

南三陸町

327

いのちめぐり、未来へつなぐ 南三陸町



■志津川湾

ラムサール条約湿地。豊かな藻場を育む「生命の循環」が体感できる海

南三陸町は宮城県の沿岸北部のリアス海岸が織りなす志津川湾を抱き、「森・里・海」の豊かな循環が息づく町です。国際的な環境認証「ブルーフラッグ」を取得した海水浴場や、ラムサール条約湿地に登録された志津川湾は、冬には国の天然記念物に指定されているコクガンも訪れる生命の宝庫。この海の恵みを凝縮した「南三陸キラキラ丼」は、町を代表する食の象徴です。

私たちは2011年の東日本大震災で甚大な被害を受けましたが、国内外からの温かな支援、そしてチリ共和国とのモアイ像を通じた交流など、多くの「絆」に支えられ歩んできました。現在は「南三陸311メモリアル」を拠点に、震災の経験を自分事として捉える伝承活動や教育旅行を推進しています。太古の魚竜化石が眠るロマン、そして合格祈願の象徴「オクトパス君」など、多様な魅力が共存する南三陸町。復興の先にある、持続可能な未来を見据えた私たちの挑戦を、ぜひ五感で確かめにいらしてください。



■町を元気にするキャラクター「オクトパス君」



■南三陸キラキラ丼

旬の海産物を使った復興のシンボル。「春つげ」「うに」「秋旨」「冬のみかくづくし」と四季の旬をぜいたくに味わう人気丼



■南三陸311メモリアル

震災の教訓を学び未来へつなぐ。語り部ガイドや対話型プログラムを提供する新しい震災伝承の拠点



■南三陸さんさん商店街

2012年の仮設から歩みをつなぎ、2017年に本設へ。笑顔とパワーあふれる「道の駅さんさん南三陸」の拠点施設



■化石のまち

世界最古級の魚竜化石「ウタツサウルス」が発見された地域。いまでも新種の化石が見つかる



■かみわりざき 神割崎キャンプ場

波音が届くほど海に近く、太平洋を一望。日の出も美しく、すぐそばには景勝地「神割崎」が位置する



■チリ共和国から贈られた「モアイ像」

1960年以降の絆。チリより世界初贈呈の本物のモアイ像。魂を宿す「目」があり、町を温かく見守る



■志津川湾夏まつり

南三陸の夏を彩る一大イベント。出店やステージでにぎわい、夜空を染める大迫力の打ち上げ花火がフィナーレを飾る

地域づくり5月号

2026年5月1日発行 編集・発行＝一般財団法人地域活性化センター

東京都中央区日本橋2-3-4 日本橋プラザビル13階 電話03-5202-6131(代)

<https://www.jcrd.jp/> 印刷・製本/株式会社太平印刷社

法律で許可された場合以外に本誌からの無断転載を禁止します

落丁・乱丁はお取り替えます。編集担当 (03-5202-6139) E-mail: hensyuu6139@jcrd.jp まで、ご連絡下さい。



地域活性化
センターからの
メールマガジン
登録はこちら

宝くじは、 みんなの暮らしに 役立っています。



移動採血車



ピクニックテーブル



宝くじドリームジャンボ絵本



宝くじ桜



消防団防災学習・災害活動車両



一輪車



パブリックアート



フラワープランター



検診車

宝くじは、少子高齢化対策、災害対策、公園整備、教育及び社会福祉施設の建設改修などに使われています。



一般財団法人日本宝くじ協会は、宝くじに関する調査研究や公益法人等が行う社会に貢献する事業への助成を行っています。

